

# マニュアルの使いかた

## 安心してお使いいただくために

- 本製品をお取り扱いいただくための注意事項  
ご使用前に必ずお読みください。

## dynabookガイド

- 本製品の準備
- 電源の入れかた／切りかた
- インターネットを使うには
- 初期化
- 廃棄／譲渡  
など
- 各部の名前
- Androidのセットアップ
- バッテリーパックの交換
- Q&A集（電源が入らないとき）

## オンラインマニュアル（本書）

本製品が起動しているときに本製品の画面上で見るマニュアルです。

- 本製品の基本操作
- ネットワーク機能
- 周辺機器の接続
- バッテリーで使う方法
- アプリケーション／ウィジェット／設定について
- 本製品の動作がおかしいとき／Q&A集  
など

# もくじ

マニュアルの使いかた .....	1
もくじ .....	2
はじめに .....	5

## 1章 使いはじめる前に..... 9

<b>1</b> バックアップをとる .....	10
<b>1</b> バックアップが必要なデータ .....	10
<b>2</b> データのバックアップをとる .....	11
<b>2</b> データを管理する – TOSHIBA File Manager – .....	14

## 2章 本製品の基本操作を覚えよう..... 17

<b>1</b> キーボード .....	18
<b>1</b> キーボード図 .....	18
<b>2</b> キーボードの文字キーの使いかた .....	20
<b>2</b> 内蔵フラッシュメモリ .....	23
<b>3</b> 画面を見やすく調整する – ディスプレー – .....	24
<b>1</b> 画面の明るさを調整する .....	24
<b>4</b> サウンド .....	25
<b>1</b> スピーカーの音量を調整する .....	25
<b>5</b> いろいろなメディアカードを使う –ブリッジメディアスロット– .....	26
<b>1</b> メディアカードを使う前に .....	27
<b>2</b> カードのセットと取り出し .....	28
<b>6</b> Webカメラを使う .....	30
<b>1</b> Webカメラのアプリケーションについて .....	30
<b>7</b> ほかのパソコンに接続する – ミニUSBコネクター – .....	32

## 3章 ネットワークの世界へ ..... 35

- 1 ネットワークで広がる世界 ..... 36**
  - 1** LAN接続はこんなに便利 ..... 36
  - 2** ワイヤレス（無線）LANを使う ..... 37
- 2 Bluetooth機能 ..... 39**

## 4章 周辺機器を使って機能を広げよう ..... 41

- 1 周辺機器を使う前に ..... 42**
- 2 USB対応機器を使う ..... 43**
- 3 テレビ／外部ディスプレイの接続 ..... 45**
  - 1** 本製品に接続する ..... 46
  - 2** 表示を切り替える ..... 47
  - 3** 本製品から取りはずす ..... 47
- 4 ヘッドセットやヘッドホンを使う ..... 48**
  - 1** ヘッドセットを使う ..... 48
  - 2** ヘッドホンを使う ..... 49

## 5章 バッテリー駆動で使う ..... 51

- 1 バッテリーについて ..... 52**
  - 1** バッテリー充電量を確認する ..... 52
  - 2** バッテリーを充電する ..... 54

## 6章 アプリケーション／ウィジェット／設定 ..... 57

- 1 アプリケーション ..... 58**
  - 1** 本製品に用意されているアプリケーション ..... 58
- 2 ウィジェット ..... 61**
  - 1** 本製品に用意されているウィジェット ..... 61

<b>3</b>	<b>設定</b> .....	<b>62</b>
	<b>1</b> デスクトップ設定.....	62
	<b>2</b> 設定.....	62
<b>4</b>	<b>画面ロック</b> .....	<b>64</b>

## 7章 本製品の動作がおかしいときは..... 67

<b>1</b>	<b>トラブルを解消するまでの流れ</b> .....	<b>68</b>
	<b>1</b> トラブルの原因をつき止めよう.....	68
	<b>2</b> トラブル対処法.....	69
<b>2</b>	<b>Q&amp;A集</b> .....	<b>70</b>
	<b>1</b> 画面／表示.....	71
	<b>2</b> キーボード.....	72
	<b>3</b> タッチパッド／マウス.....	72
	<b>4</b> その他.....	74

## 付録..... 75

<b>1</b>	<b>ご使用にあたってのお願い</b> .....	<b>76</b>
<b>2</b>	<b>記録メディアについて</b> .....	<b>80</b>
	<b>1</b> メディアカードを使う前に.....	80
	<b>2</b> 記録メディアの廃棄・譲渡について.....	81
<b>3</b>	<b>お客様登録の手続き</b> .....	<b>82</b>
	<b>1</b> 東芝ID (TID) お客様登録のおすすめ.....	82
<b>4</b>	<b>技術基準適合について</b> .....	<b>83</b>
<b>5</b>	<b>各インターフェースの仕様</b> .....	<b>86</b>
<b>6</b>	<b>無線LANについて</b> .....	<b>88</b>
<b>7</b>	<b>Bluetoothについて</b> .....	<b>98</b>

# はじめに

本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、付属の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。

必ずお読みになり、正しくお使いください。

お読みになったあとは、いつでも見られるようにお手元に大切に保管してください。

本書は、次の決まりに従って書かれています。

## 1 記号の意味

 <b>危険</b>	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（*1）を負うことがあり、その切迫の度合いが高いこと”を示します。
 <b>警告</b>	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（*1）を負うことが想定されること”を示します。
 <b>注意</b>	“取扱いを誤った場合、使用者が傷害（*2）を負うことが想定されるか、または物的損害（*3）の発生が想定されること”を示します。
 <b>お願い</b>	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
 <b>メモ</b>	知っていると便利な内容を示します。
 <b>役立つ操作集</b>	知っていると役に立つ操作を示します。
 <b>参照</b>	このマニュアルやほかのマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合…「 」 ほかのマニュアルやヘルプへの参照の場合…「 」、〈 〉

\*1 重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。

\*2 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。

\*3 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

## 2 用語について

本書では、次のように定義します。

### アプリケーションまたはアプリケーションソフト

アプリケーションソフトウェアを示します。

### AndroidまたはAndroid 2.1

Android™ version 2.1 を示します。

### 無線LANモデル

無線LAN機能を搭載しているモデルを示します。

### Bluetoothモデル

Bluetooth機能を搭載しているモデルを示します。

ご購入のモデルの仕様については、『dynabook \* \* \* \*（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

## 3 記載について

- 記載内容によっては、一部のモデルにのみ該当する項目があります。その場合は、「用語について」のモデル分けに準じて、「\* \* \* \*モデルの場合」や「\* \* \* \*シリーズのみ」などのように注記します。
- インターネット接続については、ブロードバンド接続を前提に説明しています。
- アプリケーションについては、本製品にプレインストールされているバージョンを使用することを前提に説明しています。
- 本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。
- 本書は、語尾をのばすカタカナ語の表記において、語尾に長音（ー）を適用しています。画面の表示と異なる場合がありますが、読み換えてご使用ください。

## 4 Trademarks

- Google、Google ロゴ、Android、Android ロゴは、Google Inc.の商標または登録商標です。
- NVIDIA、NVIDIAロゴ、Tegra、Tegraロゴ、Powered by NVIDIAロゴは、米国NVIDIA Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Mediaは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- SDロゴは商標です。(  )
- SDHCロゴは商標です。(  )
- Bluetoothは、その商標権者が所有しており、東芝はライセンスに基づき使用しています。
- HDMI および High-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLC. の登録商標または商標です。
- FSKARENは、富士ソフトの登録商標です。
- デ辞蔵はイースト株式会社の登録商標です。
- 「IPA フォント」は、IPAの登録商標です。

本書に掲載の商品の名称やロゴは、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

## 5 プロセッサ (CPU) に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ (CPU) の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

- 周辺機器を接続して本製品を使用する場合
- ACアダプターを接続せずバッテリー駆動にて本製品を使用する場合
- マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
- 複雑な造形に使用するソフト (たとえば、運用に高性能コンピューターが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト) を本製品上で使用する場合
- 気圧が低い高所にて本製品を使用する場合  
目安として、標高1,000メートル (3,280フィート) 以上をお考えください。
- 目安として、気温5~30℃ (高所の場合25℃) の範囲を超えるような外気温の状態では本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPUの処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。

また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。

これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記録機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。

このほかの使用制限事項につきましては各種説明書をお読みください。また、詳細な情報については東芝PCあんしんサポートにお問い合わせください。

## 6 著作権について

音楽、映像、コンピューター・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作権者および著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的にまたは家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守のうえ、適切な使用を心がけてください。

## 7 お願い

- 本製品のプラットフォーム、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- 本製品のプラットフォーム、アプリケーションは、本製品でのみ利用できます。
- 購入時に定められた条件以外で、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
- 本製品はセキュリティ対策のための画面ロックの設定や、無線LANの暗号化設定などの機能を備えていますが、完全なセキュリティ保護を保証するものではありません。セキュリティの問題の発生や、生じた損害に関し、当社はいっさいの責任を負いません。
- ご使用の際は必ず本書をはじめとする各種説明書と『エンドユーザー使用許諾契約書』および『ソフトウェアに関する注意事項』をお読みください。
- アプリケーション起動時に使用許諾書が表示された場合は、内容を確認し、同意してください。使用許諾書に同意しないと、アプリケーションを使用することはできません。一部のアプリケーションでは、一度使用許諾書に同意すると、以降起動時に使用許諾書が表示されなくなります。初期化を行った場合には再び使用許諾書が表示されます。
- 『東芝保証書』は、記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

本製品のお客様登録（ユーザー登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。当社ホームページで登録できます。

**参照** ▶ 詳細について「付録 3 お客様登録の手続き」

# 1 章

## ■ 使いはじめる前に

トラブル発生時に備えて、データのバックアップのとりかたについて説明します。

1	バックアップをとる .....	10
2	データを管理する - TOSHIBA File Manager - .....	14

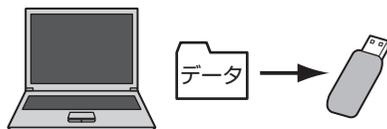
# 1 バックアップをとる

## 1章

### 使いはじめる前に

保存したファイルやフォルダーを誤って削除してしまったり、本製品のトラブルなどによってファイルが使えなくなってしまうことがあります。

このような場合に備えて、あらかじめファイルをSDメモリーカードやUSBフラッシュメモリなど、内蔵フラッシュメモリ以外の記録メディアにコピーしておくことをバックアップといいます。



大切なデータは、こまめにバックアップをとってください。

「設定」の「設定とアプリケーションの保存と復元」や「TOSHIBA File Manager」でバックアップをとることもできます。

### お願い バックアップをとるにあたって

- あらかじめ、「付録 **1** - **1** バックアップについて」を確認してください。

## 1 バックアップが必要なデータ

バックアップをとることを推奨するデータには、次のようなものがあります。

- 自分で作成したデータ（文書、画像、映像、音楽など）
- メールのデータやインターネットの「ブックマーク」

### ■ インターネット接続の設定情報について

インターネット接続の設定情報は、データのバックアップがとれません。

設定情報はプロバイダーから送られてきた書類に記載されています。書類を大切に保管し、設定に必要な情報を忘れないようにしてください。

書類が手元にない場合は、次のインターネットの設定を控えてください。

- ユーザーID
- パスワード
- 電子メールアドレス
- メールパスワード
- プライマリ DNS サーバー
- セカンダリ DNS サーバー
- インターネットメールサーバー
- ニュースサーバー など

## 2 データのバックアップをとる

### 1 本製品のデータについて

本製品の内蔵フラッシュメモリは、データを記憶している領域が、次のように分かれています。

プラットフォーム領域	プラットフォーム領域です。 Androidのプラットフォームが格納されています。読み取り専用領域です。 バックアップをとることはできません。
アプリケーション領域	プラットフォームの設定、アプリケーション、アプリケーションの設定を保存している領域です。 ユーザーが直接、ファイルのバックアップをとることはできません。 「設定」の「設定とアプリケーションの保存と復元」で、領域をまるごとバックアップすることができます。 <b>参照</b> 「本項 3 アプリケーション領域のバックアップをとる」
データ領域	通常のファイルやフォルダーを保存している領域です。 「TOSHIBA File Manager」でファイルを個別に利用したり、コピーすることができます。 ファイルをバックアップする場合は、「TOSHIBA File Manager」で記録メディアにコピーしてください。 <b>参照</b> 「本章 2 データを管理する」

### 2 バックアップ用に使用できる記録メディア

バックアップ用に使用できる記録メディアは次のようなものがあります。

- USBフラッシュメモリやSDメモ리카ードなどの記録メディア

ファイルやフォルダーの容量に合わせて、使用する記録メディアを選び、あらかじめ用意してください。

### 3 アプリケーション領域のバックアップをとる

「設定」の「設定とアプリケーションの保存と復元」で、アプリケーション領域を、まるごとバックアップすることができます。

#### アプリケーション領域のバックアップをとる

一定期間ごとや、アプリケーションを追加、削除した場合にバックアップをとることをおすすめします。

#### メモ

- バックアップのデータは、データ領域の [backup] フォルダ内に自動的に作成されますが、保存できるデータは最新3つまでです。データ作成後、[backup] フォルダを記録メディアにコピーしてください。

**1** 「設定」タブ→「設定」をクリックする

**2** 「プライバシー」をクリックする

「プライバシーの設定」画面が表示されます。

**3** 「設定とアプリケーションの保存と復元」をクリックする

「設定とアプリケーションの保存と復元」画面が表示されます。

**4** 「設定とアプリケーションの保存」をクリックする

バックアップを開始します。

バックアップが完了すると、メッセージが表示されます。

**5** 「OK」ボタンをクリックする

**6** 「TOSHIBA File Manager」で、「内蔵ストレージ」の [backup] フォルダを記録メディアにコピーする

**参照**▶「本章 2 データを管理する」

## バックアップしたデータを本製品に復元する

保存したバックアップのデータを、本製品に復元します。  
アプリケーション領域が、バックアップしたデータで上書きされます。

- 1** 「TOSHIBA File Manager」で、[backup] フォルダを記録メディアから [内蔵ストレージ] にコピーする  
参照▶「本章 2 データを管理する」
- 2** [設定] タブ→ [設定] をクリックする
- 3** [プライバシー] をクリックする  
[プライバシーの設定] 画面が表示されます。
- 4** [設定とアプリケーションの保存と復元] をクリックする  
[設定とアプリケーションの保存と復元] 画面が表示されます。
- 5** [設定とアプリケーションの復元] をクリックする  
内蔵ストレージにコピーされたバックアップのデータの一覧が表示されます。
- 6** 復元するデータの項目をクリックする  
バックアップしたデータの復元が始まります。  
終了後、自動的に再起動が行われます。

「TOSHIBA File Manager」で、内蔵フラッシュメモリ、USBフラッシュメモリやSDメモリカードなどに保存しているフォルダーやファイルを見たり、コピーや削除をすることができます。

### メモ

- 「TOSHIBA File Manager」から、ファイルに関連するアプリケーションを起動できない場合があります。

## 「TOSHIBA File Manager」の起動方法

### 1 [アプリケーション] タブ→ [TOSHIBA File Manager] をクリックする

「TOSHIBA File Manager」が起動します。

## 「TOSHIBA File Manager」の使用方法



保存する場所は次の通りです。

- 内蔵ストレージ : 内蔵フラッシュメモリのデータ領域
- SDカード : ブリッジメディアスロットにセットしたメディアカード
- USBストレージ : USBコネクタに接続したUSBフラッシュメモリなどのUSB対応機器
- 画面キャプチャ :  キーで保存した画面のファイルを保存している場所

## ファイルのコピー方法

### 1 記録メディアをセットする

**参照**▶ USBフラッシュメモリのセット「4章 2 USB対応機器を使う」  
SDメモ리카ードのセット「2章 5 - 2 カードのセットと取り出し」

### 2 「TOSHIBA File Manager」を起動する

### 3 コピーしたいファイルがある場所のアイコンをクリックする

### 4 画面下の【ファイル選択】ボタンをクリックし、コピーしたいファイルをチェックする

### 5 画面下の【コピー】ボタンをクリックする

### 6 記録メディアをセットしている場所のアイコン（【SDカード】、【USBストレージ】）を選択し、画面下の【貼り付け】ボタンをクリックする

バックアップのファイルに戻すには、「TOSHIBA File Manager」でバックアップをとった記録メディアから内蔵フラッシュメモリにコピーしてください。



# 2章

## ■ 本製品の基本操作を覚えよう

本製品各部について、基本の使いかたなどを説明しています。

1	キーボード	18
2	内蔵フラッシュメモリ	23
3	画面を見やすく調整する –ディスプレイ–	24
4	サウンド	25
5	いろいろなメディアカードを使う –ブリッジメディアスロット–	26
6	Webカメラを使う	30
7	ほかのパソコンに接続する –ミニUSBコネクタ–	32

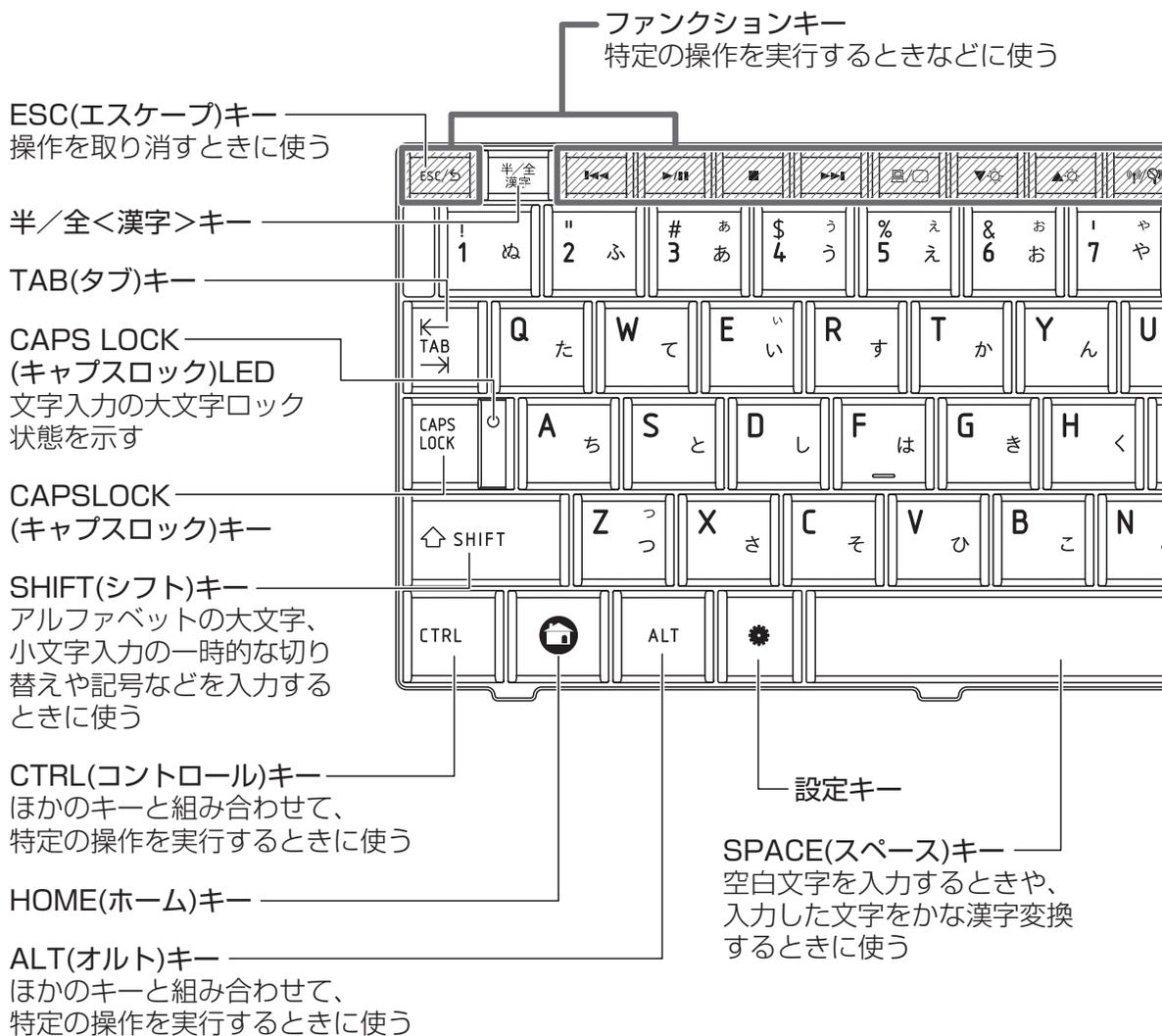
# 1 キーボード

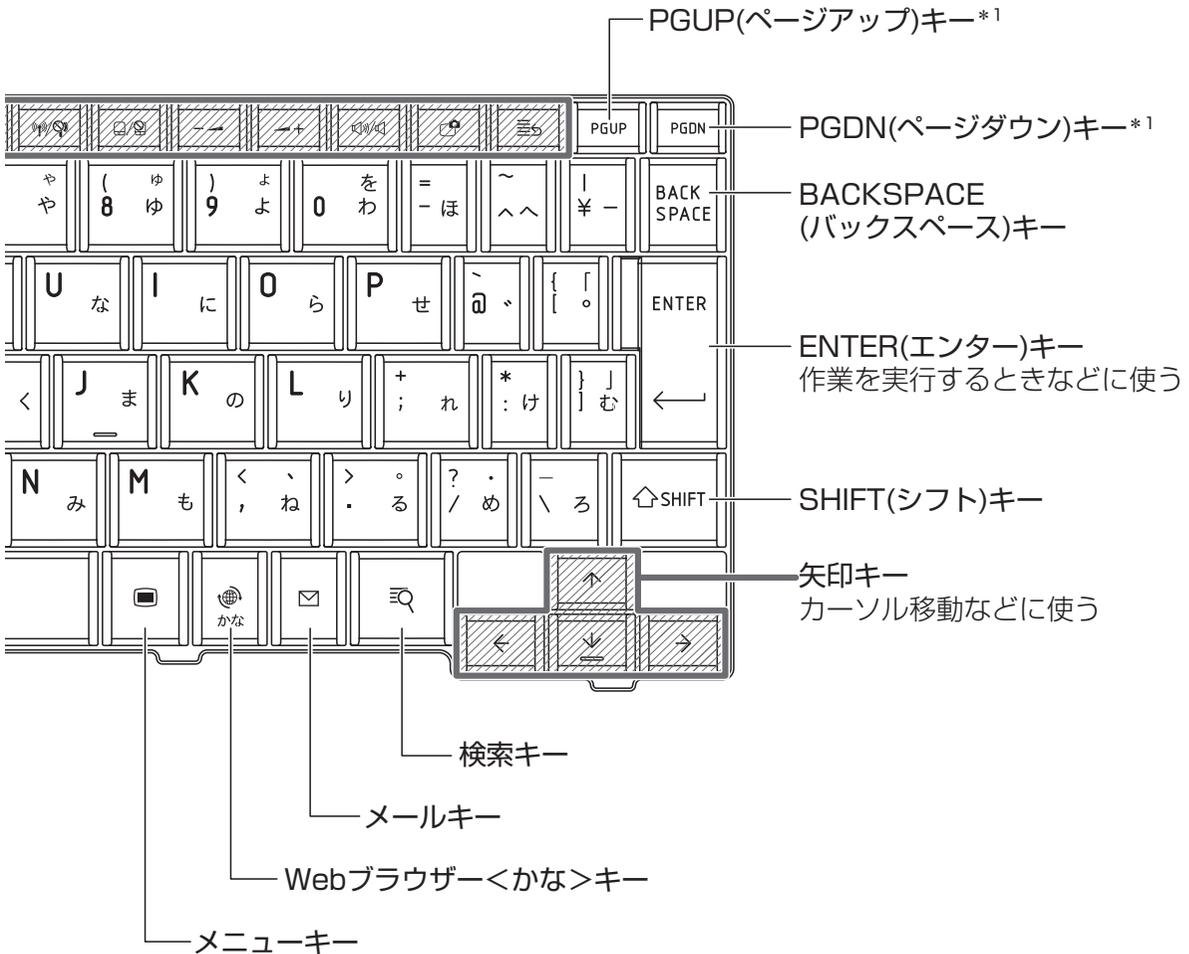
ここでは基本的な使いかたと、それぞれのキーの意味や呼びかたについて簡単に説明します。

## 2 章

### 1 キーボード図

本製品の基本操作を覚えよう

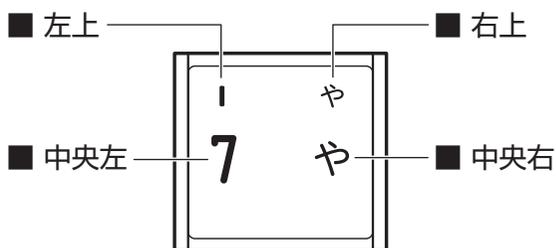




\*1 アプリケーションによっては、使用できない場合があります。

## 2 キーボードの文字キーの使いかた

文字キーは、文字や記号を入力するときに使います。文字キーに印刷されている2~4種類の文字や記号は、キーボードの文字入力の状態によって変わります。



左上	ほかのキーは使わず、そのまま押すと、アルファベットの小文字などが入力できます。 [SHIFT]キーを押しながら押すと、記号やアルファベットの大文字が入力できます。
中央左	ほかのキーは使わず、そのまま押すと、数字や記号が入力できます。
右上	かな入力ができる状態で [SHIFT] キーを押しながら押すと、記号、ひらがなの促音 <small>そくおん</small> (小さい「っ」、拗音 <small>ようおん</small> (小さい「や、ゆ、よ」)が入力できます。
中央右	かな入力ができる状態で押すと、ひらがなや記号が入力できます。

## キーを使った便利な機能

各キーにはさまざまな機能が用意されています。いろいろな操作が実行できます。

### □ ファンクションキー

キー	内容
ESC/↵ <エスケープ/戻る>	一つ前の画面または動作に戻ります。
⏮ <逆送り>	映像・音楽のアプリケーションで、ファイルを1つ前またはファイルの先頭に戻します。
▶/⏸ <再生/一時停止>	映像・音楽のアプリケーションで、再生または一時停止を行います。
■ <停止>	映像・音楽のアプリケーションで、停止を行います。
⏭ <先送り>	映像・音楽のアプリケーションで、ファイルを1つ進めます。
🖥️/🖨️ <表示装置の切り替え>	表示装置を切り替えます。 <b>参照</b> 詳細について「4章 3 テレビ/外部ディスプレイの接続」
▼☀️ <本体液晶ディスプレイの輝度を下げる>	▼☀️ キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が下がります。表示される画面で輝度の状態を確認できます。
▲☀️ <本体液晶ディスプレイの輝度を上げる>	▲☀️ キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が上がります。表示される画面で輝度の状態を確認できます。
📶/🔇 <無線通信機能のON/OFF>	📶/🔇 キーを押すたびに使用する無線LANおよびBluetooth*1のON/OFFを切り替えます。
🖱️/🖱️ <タッチパッド ON/OFF 機能>	タッチパッドからの入力を無効にできます。再び有効にするには、もう1度🖱️/🖱️キーを押します。
— <音量小>	スピーカーの音量を小さくします。 <b>参照</b> 「本章 4 サウンド」
—+ <音量大>	スピーカーの音量を大きくします。 <b>参照</b> 「本章 4 サウンド」
🔇/🔇 <スピーカーのミュート>	🔇/🔇 キーを押すたびに内蔵スピーカーやヘッドホンの音量のミュート（消音）のON/OFFを切り替えます。
📄 <画面の保存>	現在表示中の画面を「TOSHIBA File Manager」の「画面キャプチャ」に保存します。 自動的に一番前に表示される画面があると、画面の保存のメッセージが隠れて見えない場合があります。一番前の画面を閉じてください。
☰ <アプリケーションの表示>	最近使用した6つのアプリケーションを表示します。

\* 1 BluetoothはBluetoothモデルのみ

## 特殊機能キー

キー	内容
 <HOME (ホーム) >	ホーム画面を表示します。
 <設定>	設定画面を表示します。
 <メニュー>	メニューを表示します。
 <Web ブラウザー>	Web ブラウザーを起動します。
 <メール>	メールのアプリケーションを起動します。
 <検索>	検索機能の画面を表示します。

本製品には、内蔵フラッシュメモリが1台内蔵されています。  
内蔵フラッシュメモリは、取りはずしができません。

USB 接続型のハードディスクなどを使用して記憶容量を増やすことができます。

### お願い 操作にあたって

- 本製品を激しく揺らしたり、強い衝撃を与えると、故障の原因となる場合があります。
- あらかじめ、「付録 **1** - **3** 内蔵フラッシュメモリについて」を確認してください。

内蔵フラッシュメモリに記録された内容は、故障や障害の原因にかかわらず保証できません。  
万が一故障した場合に備え、バックアップをとることを推奨します。

本製品は表示装置としてTFTカラー液晶ディスプレイを内蔵しています。  
外部ディスプレイを接続して使用することもできます。

### 1 画面の明るさを調整する

本体液晶ディスプレイの明るさ（輝度）を調整します。

#### □ 輝度の調整方法

 :  キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が下がります。

 :  キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が上がります。

#### メモ

- 輝度は、[設定] タブ → [設定] → [サウンド&画面設定] → [画面の明るさ] で調整することもできます。

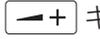
# 4 サウンド

## 1 スピーカーの音量を調整する

スピーカーの音量は、次の方法で調整できます。

### 1 または キーで調整する

- 1 音量を小さくしたいときは  キー、大きくしたいときは  キーを押す

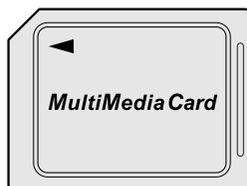
 キーを押すたびに音量が小さくなり、 キーを押すたびに音量が大きくなります。

### 2 「設定」から調整する

- 1 [設定] タブ→ [設定] をクリックする  
[設定] 画面が表示されます。
- 2 [サウンド&画面設定] をクリックする  
[音と表示の設定] 画面が表示されます。
- 3 [ボリュームコントロール] をクリックする  
[ボリュームコントロール] 画面が表示されます。
- 4 スライダーバーで調整して、[OK] ボタンをクリックする

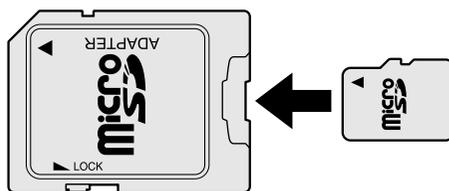
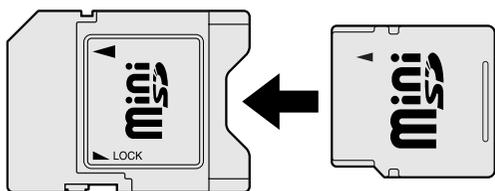
本製品では次のメディアカードをブリッジメディアスロットに差し込んで、データの読み出しや書き込みができます。

- SDメモ리카ード\*<sup>1</sup>  
(以降、SDHCメモ리카ード\*<sup>1</sup>を含みます。)
- マルチメディアカード



次のSDメモ리카ードは、市販のアダプターを装着すると、本製品のSDカードスロットでも使用できます。必ずアダプターを装着した状態でご使用ください。

- miniSDメモ리카ード\*<sup>1</sup>  
(以降、miniSDHCメモ리카ード\*<sup>1</sup>を含みます。)  
SDメモ리카ードサイズのminiSDメモ리카ード用のアダプターを使用します。
- microSDメモ리카ード\*<sup>1</sup>  
(以降、microSDHCメモ리카ード\*<sup>1</sup>を含みます。)  
SDメモ리카ードサイズのmicroSDメモ리카ード用のアダプターを使用します。



\* 1 著作権保護技術 CPRM に対応していません。

アダプターの装着や使用方法は、『SDメモ리카ードに付属の取扱説明書』を確認してください。

本書では、特に区別して説明する場合を除き、SDメモ리카ード、miniSDメモ리카ード、microSDメモ리카ードを「SDメモ리카ード」と呼びます。

メディアカードで使用できる容量については『dynabook \*\*\*\* (お使いの機種名) シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。

コンパクトフラッシュメモ리카ードなどは使用できません。

## 1 メディアカードを使う前に

**お願い** メディアカードの使用にあたって

- あらかじめ、「付録 **2** - **1** メディアカードを使う前に」を確認してください。

新品のメディアカードは、メディアカードの規格に合わせてフォーマットされた状態で販売されています。

フォーマットとは、メディアカードにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、メディアカードを使えるようにすることです。

再フォーマットをする場合は、メディアカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤーなど）で行ってください。

## 2 カードのセットと取り出し

**お願い** 操作にあたって

- あらかじめ、「付録 **2** - **1** - **1** メディアカードの操作にあたって」を確認してください。

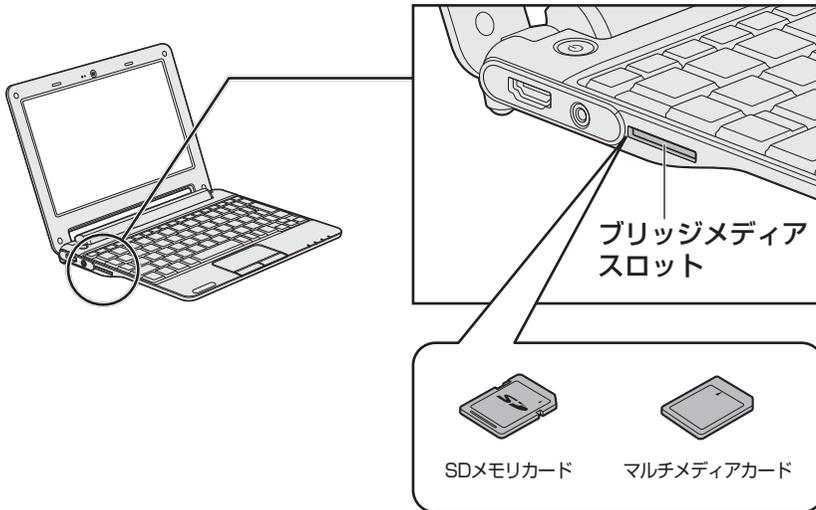
### 2 章

本製品の基本操作を覚えよう

## 1 セットする

### 1 メディアカードの表裏を確認し、表を上にして、ブリッジメディアスロットに挿入する

奥まで挿入します。



**お願い**

- miniSDメモリカード、microSDメモリカードは、SDメモリカードサイズのアダプターが必要です。  
アダプターを使用せずに直接挿入すると、取り出せなくなります。

## 2 セットしたメディアカードの内容を見る

著作権保護を必要としない画像や音声、テキストなどの一般的なファイルは、次の手順で見ることができます。

### 1 「TOSHIBA File Manager」を起動する

**参照**▶ 詳細について「1章 2 データを管理する」

### 2 [SDカード] アイコン ( ) をクリックする

セットしたメディアカードの内容が表示されます。

## 3 取り出す

メディアカードに保存しているファイルを使用していたり、ウィンドウを開いたりしていると、取り出しができません。

ウィンドウやファイルを閉じてから、操作を行ってください。

### 1 [設定] タブ→ [設定] をクリックする

[設定] 画面が表示されます。

### 2 [ストレージの設定] をクリックする

### 3 「外部ストレージ」に表示されているメディアカードをクリックする

スロットからメディアカードの取り出しが可能になります。

### 4 メディアカードを取り出す

ブリッジメディアスロットから出ている部分を持ち、静かに引き抜いてください。

# 6

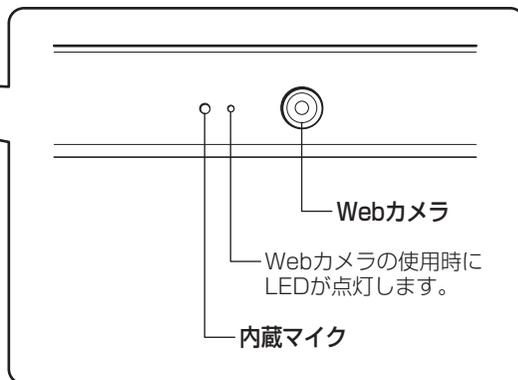
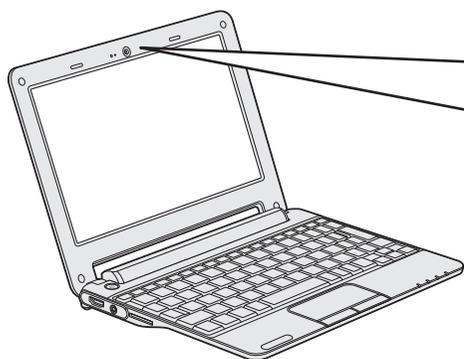
## Webカメラを使う

本製品には、「Webカメラ」が内蔵されています。

専用のアプリケーションを使うと、インターネット経由で映像を送ったり、ビデオチャットを行ったりできます。

### 2章

本製品の基本操作を覚えよう



### お願い Webカメラについて

- Webカメラに保護シートが貼ってある場合には、Webカメラを使用する前に、必ず保護シートをはがしてください。
- あらかじめ、「付録 **1** - **4** Webカメラについて」を確認してください。

## 1 Webカメラのアプリケーションについて

本製品には、Webカメラ用のアプリケーションが用意されています。

### 1 起動方法

- 1 [アプリケーション] タブ→ [カメラ] をクリックする  
「カメラ」が起動します。

## 2 写真や動画を撮影する

画面右側の [カメラ] () と [ビデオ] () を切り替えて使用します。

次の機能があります。

- シャッターボタン () (カメラモード)
- 録画ボタン () (ビデオモード)
- 設定ボタン ()

画面左側の設定ボタンをクリックすると、設定画面が表示され、モードによって次の項目を設定できます。

### カメラモードの場合

- ・ 位置情報を記録する
- ・ 写真の画質
- ・ アンチバンディング

### ビデオモードの場合

- ・ 動画の再生時間
- ・ 手ぶれ補正

ミニ<sup>ユーエスピー</sup>USBコネクタで、他のパソコンに接続することができます。

### お願い USB対応機器の操作にあたって

- あらかじめ、「付録 **1** - **7** - USB対応機器の操作にあたって」を確認してください。

## ケーブルについて

USBケーブルは、市販のもので、本製品に接続する側がミニBタイプのプラグのものを使用してください。

接続するパソコン側のプラグについては、『パソコンの取扱説明書』を確認してください。

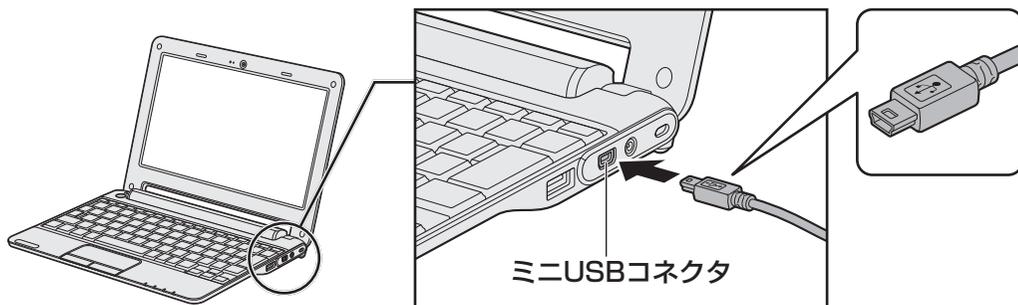
## 1 取り付け

- 1 USBケーブルの一方のプラグを接続するパソコンのUSBコネクタに差し込む

接続するパソコンの詳細は、『接続するパソコンに付属の説明書』を確認してください。

- 2 USBケーブルのもう一方のプラグを本製品のミニUSBコネクタに差し込む

プラグの向きを確認して差し込んでください。



ステータスバーエリアにUSBアイコン (  ) が表示されます。

- 3 ステータスバーエリアをクリックする

**4** [USB接続] をクリックする

本製品とパソコンを接続するメッセージが表示されます。

**5** [マウント] ボタンをクリックする

本製品とパソコンは接続されました。

**2** 取りはずし**1** 本製品でパソコンとの接続を停止する

- ① ステータスバーエリアをクリックする
- ② [USB接続] をクリックする  
[USBストレージをOFFにする] 画面が表示されます。
- ③ [OFF] ボタンをクリックする

**2** 接続したパソコンと本製品に差し込んであるUSBケーブルを抜く**3** [Windows Media Player] で映像や音楽のファイルを同期する

接続したパソコンにインストールされている「Windows Media Player」の同期機能を使用すると、接続しているパソコンの映像や音楽のファイルを、本製品に同期することができます。同期とは、「Windows Media Player」に登録している映像や音楽のファイルを、本製品にコピーする機能です。登録をはずした場合は、同期を行ったときに本製品からも削除されます。

「Windows Media Player」の同期機能は、[同期] タブで行います。

本製品の内蔵フラッシュメモリは大容量ではないため、たくさんの映像や音楽のファイルを同期することはできません。

映像や音楽のファイルを選別して、再生リストを作成し同期するか、手動で同期を行ってください。

詳しくは、「Windows Media Player」のヘルプを確認してください。

**接続するパソコンの動作環境を確認する**

本製品の同期機能は、「Windows Media Player」で9、10、11、12のバージョンが対応しています。

**同期したファイルを再生する**

同期して本製品に保存されたファイルは「TOSHIBA File Manager」でアプリケーションを選択して再生したり、「TOSHIBA Media Player」で再生することができます。



# 3章

## ■ ネットワークの世界へ

本製品に搭載されている通信に関する機能を説明しています。  
ネットワークやほかのパソコンと通信する方法について紹介します。

- 1 ネットワークで広がる世界 ..... 36
- 2 Bluetooth機能 ..... 39

# 1 ネットワークで広がる世界

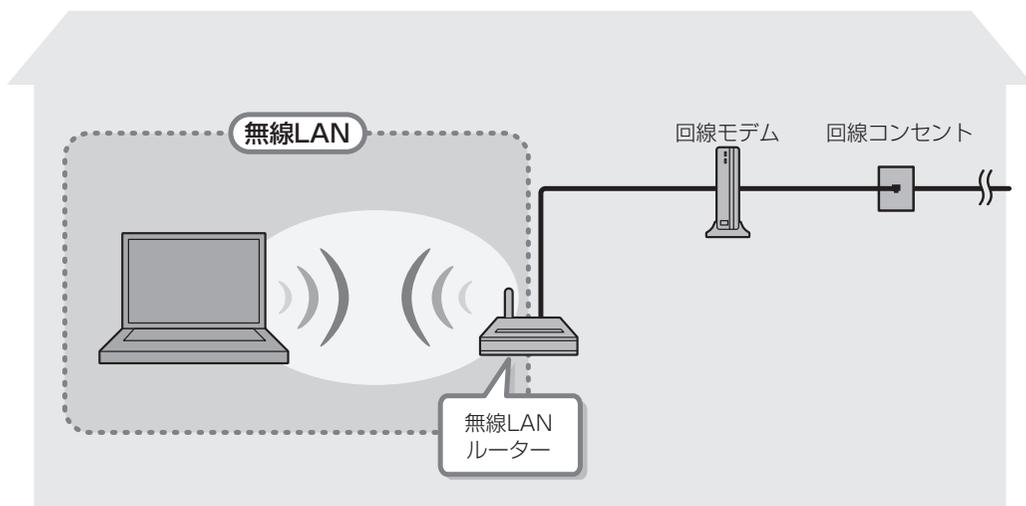
インターネット接続を使いたいときは、ネットワークを使うと便利です。

## 1 LAN接続はこんなに便利

無線LANモデルでは、ケーブルを使わない無線LANを使用できます。

3章

ネットワークの世界へ



(接続例)

### ■ 無線LAN

無線LANとは、LANケーブルを接続していない状態でもネットワークに接続できる、ワイヤレスのLAN機能のことです。モデムやルーターの位置とは関係なく、無線通信のエリア内であればあらゆる場所からネットワークに接続できます。

無線LANルーターや無線LANアクセスポイント（市販）を使用することによって、ワイヤレスでネットワーク環境を実現できます。

## 2 ワイヤレス（無線）LANを使う

\* 無線LANモデルのみ

### 1 無線LANを使ってみよう

#### 警告

- 無線LANモジュールが内蔵されている製品をお使いになる場合、心臓ペースメーカーを装着している方は、心臓ペースメーカーの装着部位から22cm以上離す電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

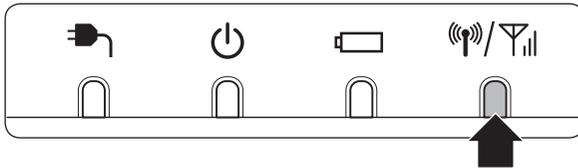
飛行機の中や電波の使用が制限されている場所では、 キーを押して無線通信機能をOFFに切り替えて、電波の発信を止めるようにしてください。

#### お願い

- あらかじめ、「付録 **1** - **5** 無線LANについて」を確認してください。
- 『安心してお使いいただくために』に、セキュリティに関する注意事項や使用上の注意事項を説明しています。  
無線LANを使用する場合は、その記述を読んで、セキュリティの設定を行ってください。

#### 1 キーを押してONに切り替える

 キーを押すたびに、無線通信機能のON/OFFが切り替わります。



ONに切り替わると、ワイヤレスコミュニケーション  LEDが点灯します。

「設定」からも無線通信機能のON/OFFを切り替えることができます。

「設定」タブ→「設定」→「無線とネットワーク」→「機内モード」をチェックすると無線通信機能がOFFになります。チェックをはずすとONになります。

## 2 無線LANアクセスポイントへの接続

無線LANアクセスポイントに接続する方法を説明します。

無線LAN機能を使用する場合、セキュリティ設定を行うことをおすすめします。  
セキュリティの設定を行っていない場合、さまざまな問題が発生する可能性があります。

**参照** 無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意

『安心してお使いいただくために』

これらの問題に対応するためには、無線LANアクセスポイント、無線LANカードの双方で通信データの暗号化などのセキュリティが必要になります。

本製品には、無線LANを使用するにあたっての問題に対応するためのセキュリティ機能が用意されています。

セキュリティ設定を行い、セキュリティ機能を有効にして本製品を使用すれば、それらの問題が発生する可能性を低くすることができます。

**1** [設定] タブ→ [設定] をクリックする

**2** [無線とネットワーク] をクリックする

**3** [Wi-Fi] をチェックする

[機内モード] にチェックが付いている場合は、チェックをはずしてから操作してください。

無線LANを使用できるようになります。

**4** [Wi-Fi設定] をクリックする

**5** [Wi-Fiネットワーク] で接続するアクセスポイントをクリックする

[パスワードの設定] 画面が表示されます。

無線LANアクセスポイントが設定しているパスワード（ネットワーク キー）を入力してください。

選択する項目、データ暗号化の方式、ネットワーク キーの詳細は、お使いになる無線LANアクセスポイントの取扱説明書を確認のうえ、正しく設定してください。正しく設定していない場合、無線LANアクセスポイントに接続できない場合があります。

## \* Bluetoothモデルのみ

Bluetoothワイヤレステクノロジーは、パソコンや周辺機器、携帯電話などの機器どうして無線でデータをやりとりできる、世界標準の通信方式です。

Bluetoothワイヤレステクノロジーを搭載した機器であれば、お互いに通信相手を登録することで、簡単にデータのやりとりができます。

## お願い

## Bluetooth機能の操作にあたって

- あらかじめ、「付録 **1** - **6** Bluetoothについて」を確認してください。

 メモ

- Bluetoothのバージョンによっては本製品と通信できないBluetooth対応機器があります。本製品では、Bluetooth Version 1.1、1.2、2.0、2.0+EDR、2.1、2.1+EDRのBluetooth対応機器と通信ができます。
- 2.4GHz帯の無線LANが近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。

## 1 Bluetooth通信が可能な状態にする

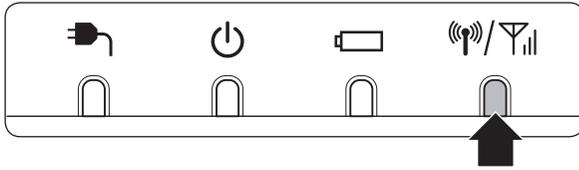
 警告

- Bluetoothモジュールが内蔵されている製品をお使いになる場合、心臓ペースメーカーを装着している方は、心臓ペースメーカーの装着部位から22cm以上離す電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

飛行機の中や電波の使用が制限されている場所では、 キーを押して無線通信機能をOFFに切り替えて、電波の発信を止めるようにしてください。

### 1 キーを押してONに切り替える

 キーを押すたびに、無線通信機能のON/OFFが切り替わります。



ONに切り替わると、ワイヤレスコミュニケーション  LEDが点灯します。

## 3章

### ネットワークの世界へ

### 2 [設定] タブ→ [設定] をクリックする

### 3 [無線とネットワーク] をクリックする

### 4 [Bluetooth] をチェックする

[機内モード] にチェックが付いている場合は、チェックをはずしてから操作してください。

Bluetooth機能を使用できるようになります。

### 5 [Bluetooth設定] をクリックする

### 6 「Bluetooth 端末」で接続するBluetoothの外部機器をクリックする

[パスワードの設定] 画面が表示されます。

Bluetoothの外部機器が設定しているパスワードを入力してください。

# 4章

## ■ 周辺機器を使って機能を広げよう

本製品でできることをさらに広げたい。

そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。

本製品に取り付けられるさまざまな周辺機器の紹介と、よく使う周辺機器の取り付けかたや各種設定、取り扱いについて説明しています。

- 1 周辺機器を使う前に ..... 42
- 2 USB対応機器を使う..... 43
- 3 テレビ／外部ディスプレイの接続 ..... 45
- 4 ヘッドセットやヘッドホンを使う ..... 48

周辺機器とは、本製品に接続して使う機器のことで、デバイスともいいます。周辺機器を使うと、本製品の性能を高めたり、本製品が持っていない機能を広げることができます。

周辺機器には、本製品の中に取り付ける内蔵方式のものと、本製品にあるコネクタや端子、スロットにつなぐ外付け方式のものがあります。

### ■ 内蔵方式のもの

- バッテリー

### ■ 外付け方式のもの

本製品のインターフェースに合った周辺機器をご利用ください。

周辺機器によっては、インターフェースなどの規格が異なることがあります。インターフェースとは、機器を接続するときのケーブルやコネクタや端子、スロットの形状などの規格のことです。

購入される際には、目的に合った機能を持ち、本製品に対応している周辺機器をお選びください。周辺機器が本製品に対応しているかどうかについては、その周辺機器のメーカーに確認してください。

**参照**▶ コネクタの仕様について「付録 **5** 各インターフェースの仕様」

### **お願い** 周辺機器の取り付け／取りはずしにあたって

- あらかじめ、「付録 **1** - **7** 周辺機器について」を確認してください。

本製品で使用できるおもな周辺機器は、次のとおりです。

- USB 対応機器

**参照**▶ USB 対応機器「本章 **2** USB 対応機器を使う」

- テレビ／外部ディスプレイ

**参照**▶ テレビ／外部ディスプレイの接続「本章 **3** テレビ／外部ディスプレイの接続」

- ヘッドセット／ヘッドホン

**参照**▶ ヘッドセット／ヘッドホンの接続「本章 **4** ヘッドセットやヘッドホンを使う」

# 2

## USB対応機器を使う

ユーザー

USB対応機器は、電源を入れたままの取り付け／取りはずしができます。

また、新しい周辺機器を接続すると、自動的に機器を使用可能にするプラグアンドプレイに対応しています。

本製品では次のUSB対応機器を使用することができます。

- USBフラッシュメモリ
- USB接続型ハードディスクドライブ
- USB対応マウス
- USB対応キーボード
- USB対応ハブ

本製品のUSBコネクタにはUSB2.0対応機器とUSB1.1対応機器を取り付けることができます。USB対応機器の詳細は、『USB対応機器に付属の説明書』を確認してください。

### お願い USB対応機器の操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 7 - USB対応機器の操作にあたって」を確認してください。

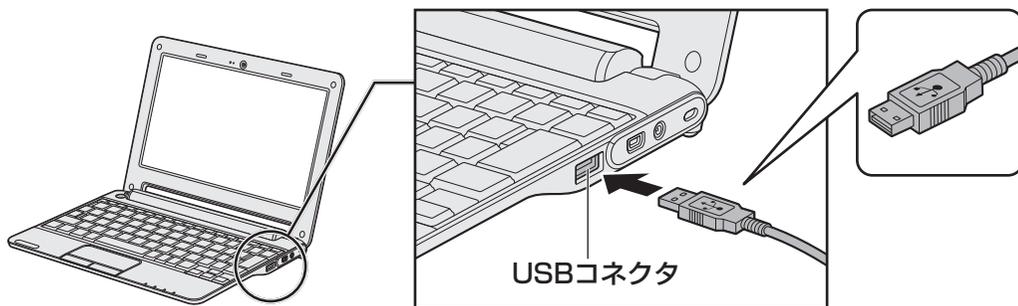
## 1 取り付け

### 1 USBケーブルのプラグをUSB対応機器に差し込む

この手順が必要ない機器もあります。USB対応機器の詳細は、『USB対応機器に付属の説明書』を確認してください。

### 2 USBケーブルのもう一方のプラグを本製品のUSBコネクタに差し込む

プラグの向きを確認して差し込んでください。



### 2 取り付けしたUSB対応機器の内容を見る

USBフラッシュメモリやUSB接続型ハードディスクドライブに保存している、著作権保護を必要としない画像や音声、テキストなどの一般的なファイルは、次の手順で見ることができます。

#### 1 「TOSHIBA File Manager」を起動する

**参照**▶ 詳細について「1章 2 データを管理する」

#### 2 [USBストレージ] アイコン ( ) をクリックする

メッセージが表示されます。

#### 3 目的のUSB対応機器を選択し、[OK] ボタンをクリックする

セットしたUSBフラッシュメモリやUSB接続型ハードディスクドライブの内容が表示されます。

## 4 章

### 周辺機器を使って機能を広げよう

### 3 取りはずし

#### 1 USBフラッシュメモリやUSB接続型ハードディスクドライブの場合は、使用を停止する

- ① [設定] タブ→ [設定] をクリックする  
[設定] 画面が表示されます。
- ② [ストレージの設定] をクリックする
- ③ 「外部ストレージ」に表示されているUSB対応機器をクリックする  
コネクタからUSB対応機器の取りはずしが可能になります。

#### 2 本製品とUSB対応機器に差し込んであるUSBケーブルを抜く

本製品とテレビ／外部ディスプレイをHDMIケーブルで接続すると、画面に本製品のデスクトップ画面を表示させることができます。

HDMI出力端子は、音声もテレビ／外部ディスプレイに出力することができます。

#### お願い テレビ／外部ディスプレイ接続の操作にあたって

- あらかじめ、「付録 **1** - **7** - テレビ／外部ディスプレイ接続の操作にあたって」を確認してください。

#### ■ 接続の前に

テレビ／外部ディスプレイを接続するときは、『テレビ／外部ディスプレイに付属の取扱説明書』もあわせて確認してください。

HDMI端子またはDVI端子があるテレビ／外部ディスプレイを接続できます。

DVI端子があるテレビ／外部ディスプレイを接続する場合は、市販のHDMI ↔ DVI変換ケーブルをご使用ください。

DVI端子に接続した場合、音声を出力することはできません。

#### メモ

- 接続するケーブルは、市販のものを使用してください。
- HDMIケーブルは、HDMIロゴ（**HDMI**）の表示があるケーブルをご使用ください。
- テレビ／外部ディスプレイへの表示方法は、「本節 **2** 表示を切り替える」を参照してください。
- 使用可能なテレビ／外部ディスプレイは、本体液晶ディスプレイで設定している解像度により異なります。解像度にあったテレビ／外部ディスプレイを接続してください。

## 1 本製品に接続する

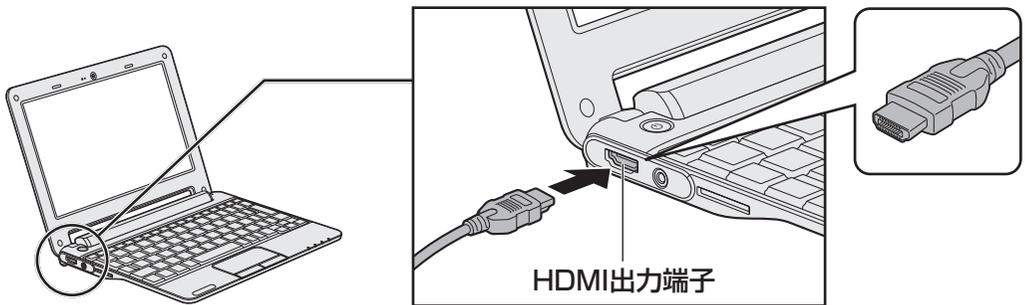
### 1 HDMIケーブルのプラグをテレビまたは外部ディスプレイのHDMI入力端子に差し込む

DVI端子がある表示装置に接続する場合は、HDMI ↔ DVI変換ケーブルのDVIプラグを表示装置のDVI端子に差し込んでください。

### 2 テレビまたは外部ディスプレイの電源を入れる

### 3 HDMIケーブルのもう一方のプラグを本製品のHDMI出力端子に差し込む

HDMI ↔ DVI変換ケーブルの場合は、HDMIプラグを本製品のHDMI出力端子に差し込んでください。



#### メモ

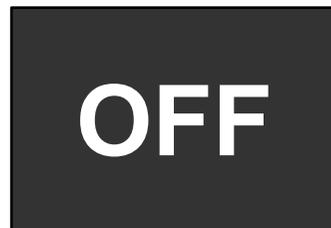
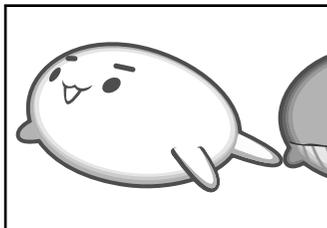
- HDMI接続で、テレビまたは外部ディスプレイに映像を映しているとき、HDMIケーブルを抜いたあと、再度HDMIケーブルを接続する場合は5秒以上間隔をあげてください。

## 2 表示を切り替える

テレビ／外部ディスプレイを接続した場合には、次の表示方法があります。  
表示方法は、表示装置の切り替えを行うことで変更できます。

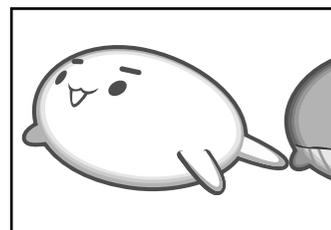
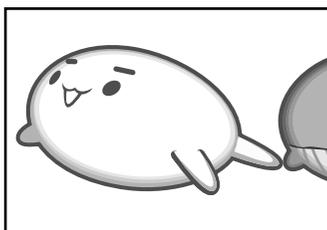
### ■ 本体液晶ディスプレイまたはテレビ／外部ディスプレイだけに表示

いずれかの表示装置にのみ、デスク  
トップ画面を表示します。



### ■ 本体液晶ディスプレイとテレビ／外部ディスプレイの同時表示

2つの表示装置それぞれにデスク  
トップ画面を表示します。



### メモ

- テレビ／外部ディスプレイと本体液晶ディスプレイを同時表示させる場合は、同時表示の種類や設定に合った色数／解像度で表示されます。
- 表示を切り替えたとき、自動的に解像度を変更される場合があります。  
本体液晶ディスプレイだけに表示を切り替えると、元の解像度に戻ります。
- テレビ／外部ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、テレビ／外部ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

## 1 切り替え方法

- [ ] キーを押してください。
- [ ] キーを押すたびに、表示装置が切り替わります。

## 3 本製品から取りはずす

テレビまたは外部ディスプレイと本製品の電源を切った状態で取りはずしてください。

### 1 HDMI 出力端子からケーブルを抜く

# 4

## ヘッドセットやヘッドホンを使う

本製品には、ヘッドセットやヘッドホンを接続できます。  
ヘッドセットを使うと、音声ソフトの使用や音声を使ったチャットを行うことができます。  
本製品で外付けのマイクを使うときは、ヘッドセットのマイクを使用してください。

### お願い ヘッドセットやヘッドホンの操作にあたって

- あらかじめ、「付録 **1** - **7** - ヘッドセットやヘッドホンの操作にあたって」を確認してください。

## 4章

### 周辺機器を使って機能を広げよう

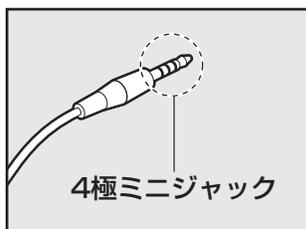
## 1 ヘッドセットを使う

マイク入力端子／ヘッドホン出力端子には、ヘッドセットを接続できます。本製品にはサウンド機能が搭載されています。

**参照** ▶ サウンド機能について「2章 **4** サウンド」

## 1 使用できるヘッドセット

本製品で使用できるヘッドセットは次のとおりです。

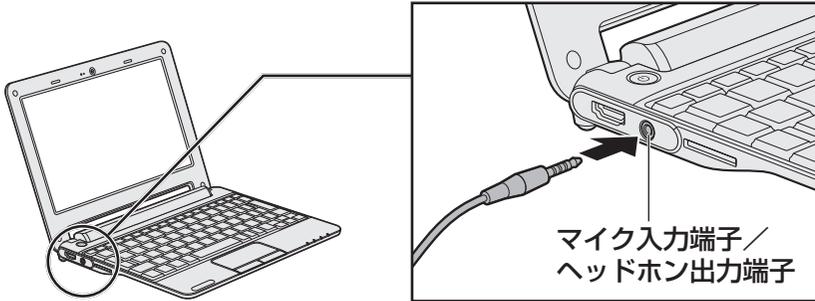


- プラグは直径3.5mm4極ミニジャックタイプが使用できます。
- すべてのヘッドセットに対応するものではありません。

音声認識ソフトとあわせて使用する場合は、各アプリケーションの取り扱い元が推奨するヘッドセットを使用してください。

## 2 接続する

- 1 ヘッドセットのプラグをマイク入力端子／ヘッドホン出力端子に差し込む



取りはずすときは、マイク入力端子／ヘッドホン出力端子からヘッドセットのプラグを抜きます。

## 2 ヘッドホンを使う

マイク入力端子／ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続すると、音楽や音声を聞くことができます。

ヘッドホンのプラグは、直径3.5mmステレオミニジャックタイプを使用してください。

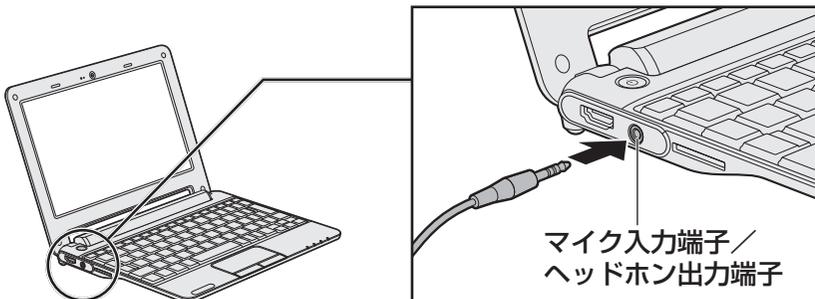
本製品にはサウンド機能が搭載されています。

ヘッドホンの音量は キーと キー、または「設定」の [サウンド&画面設定] で調節してください。

**参照** ▶ 「2章 4 サウンド」

## 1 接続する

- 1 ヘッドホンのプラグをマイク入力端子／ヘッドホン出力端子に差し込む



取りはずすときは、マイク入力端子／ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを抜きます。



# 5章

## ■ バッテリー駆動で使う

パソコンをモバイル使用する際に大事な存在であるバッテリーは、使いかたによっては長持ちさせることができます。

ここでは、充電や充電量の確認などについて説明しています。

1	バッテリーについて .....	52
---	-----------------	----

# 1 バッテリーについて

本製品には、バッテリーパックが取り付けられています。

バッテリーを充電して、バッテリー駆動（ACアダプターを接続しない状態）で使うことができます。

本製品を初めて使用するときは、バッテリーパックを充電してから使用してください。

バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめACアダプターを接続してバッテリーパックの充電を完了（フル充電）させるか、フル充電したバッテリーパックを取り付けてください。

指定する方法・環境以外でバッテリーパックを使用した場合には、発熱、発火、破裂するなどの可能性があり、人身事故につながりかねない場合がありますので、十分ご注意ください。『安心してお使いいただくために』や『dynabookガイド』に、バッテリーパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

## 5章

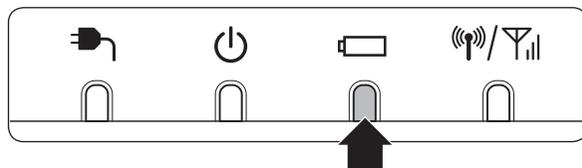
### バッテリー駆動で使う

## 1 バッテリー充電量を確認する

バッテリー駆動で使う場合、バッテリーの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリーの充電量を確認しておく必要があります。

## 1 システムインジケータで確認する

ACアダプターを使用している場合、Battery  LEDが点灯します。



Battery  LEDは次の状態を示しています。

白色	充電完了
オレンジ色	充電中
オレンジ色の点滅	充電が必要 <b>参照</b> ▶ バッテリーの充電について「本節 <b>2</b> バッテリーを充電する」
消灯	・ ACアダプターが接続されていない ・ バッテリーが接続されていない 上記のいずれにも当てはまらない場合は、バッテリー異常の可能性が あります。東芝PCあんしんサポートに連絡してください。

## 2 ステータスバーエリアの [バッテリー] アイコンで確認する

ステータスバーエリアの [バッテリー] アイコンの表示によってバッテリーの状態を確認できます。

バッテリーアイコン	バッテリーの状態
	バッテリー残量がまったくなく、充電またはバッテリーパックの交換が必要な状態
	バッテリー残量が極めて少なく、充電が必要な状態
	バッテリーの一部が使用されている状態
	バッテリーがフル充電されている状態
	バッテリーを充電中の状態

## 3 「設定」で確認する

次の手順で、より正確なバッテリー残量を確認できます。

- 1 [設定] タブ→ [設定] をクリックする  
[設定] 画面が表示されます。
- 2 [端末について] をクリックする
- 3 [端末の状態] をクリックする
- 4 [電池残量] を確認する

1ヵ月以上の長期にわたり、ACアダプターを接続したままパソコンを使用してバッテリー駆動を行わないと、バッテリー充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリー充電量が減少したときは、Battery  LEDや [バッテリー] アイコン、[電池残量] で充電量の減少が表示されないことがあります。1ヵ月に1度は再充電することを推奨します。

## 4 バッテリー充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリーの充電量が少なくなると、次のように警告します。

- Battery  LEDがオレンジ色に点滅する (バッテリーの残量が少ないことを示しています)
- ステータスバーエリアの [バッテリー] アイコンの表示が  または  に変わる

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。

- ① パソコン本体にACアダプターを接続し、充電する
- ② 電源を切ってから、フル充電のバッテリーパックと取り換える

長時間使用しないでバッテリーが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らず、Battery  LEDでも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

### 時計用バッテリー

本製品には、取りはずしができるバッテリーパックのほかに、内蔵時計を動かすための時計用バッテリーが内蔵されています。

時計用バッテリーの充電は、ACアダプターを接続し電源を入れているとき（電源ON時）に行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識する必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。

時計用バッテリーが切れていると、時間の再設定などが必要になります。

#### ■ 充電完了までの時間

時計用バッテリーは電源ON（Power  LEDが白色に点灯）の状態にしておくと、約24時間で充電が完了します。

実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

## 2 バッテリーを充電する

充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

### お願い バッテリーを充電するにあたって

- あらかじめ、「付録 **1** - **8** - バッテリーを充電するにあたって」を確認してください。

### 1 充電方法

#### 1 本製品にACアダプターを接続し、電源コードのプラグをコンセントに差し込む

DC IN  LEDが白色に点灯してBattery  LEDがオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

電源コードのプラグをコンセントに差し込むと、電源のON/OFFにかかわらずフル充電になるまで充電されます。

#### 2 Battery LEDが白色になるまで充電する

バッテリーの充電中はBattery  LEDがオレンジ色に点灯します。

DC IN  LEDが消灯している場合は、電源が供給されていません。ACアダプター、電源コードの接続を確認してください。



メモ

- 本製品を長時間ご使用にならないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。

## ■ 充電完了までの時間

バッテリー充電時間は、本製品の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。周囲の温度が低いとき、バッテリーパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けているとき、アプリケーションを使用しているときは、充電完了まで時間がかかることがあります。詳しくは、『dynabook \* \* \* \* (お使いの機種名) シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

## ■ バッテリー駆動時間

バッテリー駆動での使用時間は、本製品の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。詳しくは、『dynabook \* \* \* \* (お使いの機種名) シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

## ■ バッテリー駆動時の処理速度

高度な処理を要するソフトウェア（3Dグラフィックス使用など）を使用する場合は、十分な性能を発揮するためにACアダプターを接続してご使用ください。

## ■ 使っていないときの充電保持時間

本製品を使わないで放置していても、バッテリー充電量は少しずつ減っていきます。バッテリーの保持時間は、放置環境などによって異なります。

## 2 バッテリーを長持ちさせる

本製品のバッテリーをより有効に使うための工夫を紹介します。

### バッテリーの機能低下を比較的遅くする方法

次の点に気をつけて使用すると、バッテリーの機能低下を比較的遅くすることができます。

- 本製品とACアダプターをコンセントに接続したままの状態、本製品を長時間使用しないときは、ACアダプターをコンセントからはずしてください。
- 1ヵ月以上の長期間バッテリーを使わない場合は、本製品からバッテリーをはずして、風通しの良い涼しい場所に保管してください。
- おもにACアダプターを接続して本製品を使用し、バッテリーパックの電力をほとんど使用しないなど、100%の残量近辺で充放電をくり返すとバッテリーの機能低下を早める場合があります。
- 1ヵ月に1度は、ACアダプターをはずしてバッテリー駆動で本製品を使用してください。

## 5章

### バッテリー充電量を節約する方法

バッテリーを節約して、本製品をバッテリー駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく

## 3 バッテリーパックを保管する

バッテリーパックを保管するときは、次の説明をお読みください。

また、『安心してお使いいただくために』や『dynabookガイド』にも、バッテリーパックを保管するときの重要事項が記述されています。あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

- 充電状態のバッテリーを放置しておくともバッテリーが機能低下し、もう一度充電したときの容量が減少してしまいます。この機能低下は、保存温度が高いほど早く進みます。
- バッテリーパックの電極（金属部分）がショートしないように、金属製ネックレス、ヘアピンなどの金属類と混在しないようにしてください。
- 落下したり衝撃がかかったりしないよう安定した場所に保管してください。

# 6章

## ■ アプリケーション/ウィジェット /設定

本製品に用意されているアプリケーションやウィジェット、設定について説明しています。

1	アプリケーション .....	58
2	ウィジェット .....	61
3	設定 .....	62
4	画面ロック .....	64

# 1 アプリケーション

本製品の [アプリケーション] タブに用意されているアプリケーションについて、説明します。アプリケーションはあとから追加することもできます。

**参照** ▶ アプリケーションの起動方法『dynabookガイド 1章 6 - 2 本製品の基本操作』

## 1 本製品に用意されているアプリケーション

### インターネット／通信

#### ■ ブラウザ

インターネットブラウザソフトです。ホームページの閲覧ができます。ホームページのレイアウト（フレーム）、内容によっては、正しく表示できない場合があります。ファイルのアップロードについては、サポートしておりません。

#### ■ Opera Mobile

インターネットブラウザソフトです。ホームページの閲覧ができます。ホームページのレイアウト（フレーム）、内容によっては、正しく表示できない場合があります。

#### ■ メール

メールソフトです。メールのやり取りができます。

#### ■ fring

インターネットに接続後、他のfringユーザーやサポートする他のサービスのユーザーとのVoIP通話（音声通話）やチャットを行うことができます。

### オフィスアプリケーション

#### ■ Documents To Go

Microsoft® Word、Excel®、PowerPoint®、Adobe® PDFのファイルを表示することができます。

ドキュメントのフォーマットによっては、原本と異なるフォーマットで表示される場合があります。

（無償バージョンになります。有償バージョンは購入が必要になります。）

## ■ 実用

### ■ TOSHIBA File Manager

内蔵フラッシュメモリ、USBフラッシュメモリやSDメモリカードなどに保存している、フォルダーやファイルを見たり、コピーすることができます。

**参照** ▶ 「1章 2 データを管理する」

### ■ Evernote

「Evernote」のサービスに登録すると、テキストやWebページ、写真などを保存することができます。

## ■ マルチメディア

### ■ TOSHIBA Media Player

音楽や映像、写真などのファイルを再生することができます。

DMP機能は、Windows 7上の「Windows Media Player 12」のみを対象としており、その他のDLNAやUPnP機器との接続は保証しておりません。

プラットフォーム側の制限で、曲名などの表示において一部の2バイト文字コードが正しく処理されません。

### ■ 音楽

本製品に保存されている音楽ファイルを再生することができます。

プラットフォーム側の制限で、曲名などの表示において一部の2バイト文字コードが正しく処理されません。

### ■ 音声レコーダー

マイクを使用して、音声を録音できます。

### ■ カメラ

Webカメラで写真や動画を撮影することができます。

**参照** ▶ 「2章 6 Webカメラを使う」

### ■ ギャラリー

内蔵フラッシュメモリ、USBフラッシュメモリやSDメモリカードに保存している静止画や映像などのファイルを一覧表示し、再生することができます。

内蔵フラッシュメモリ内に保存されているファイルと、記録メディアや外部記憶装置内に保存されているファイルは、区別なく一元表示されます。

### ■ デ辞蔵

複数の辞書を収録したアプリケーションです。

初回起動時、使用可能になるまで30秒程度かかります。

## 役立つ操作集

### codecについて

「TOSHIBA Media Player」、「音楽」、「ギャラリー」でサポートしている codec は、次のとおりです。エンコード条件によっては、正常に再生あるいは表示できない場合があります。

- 音楽
  - ・ AAC LC
  - ・ HE-AACv1 (AAC+)
  - ・ HE-AACv2 (enhanced AAC+)
  - ・ AMR-NB
  - ・ AMR-WB
  - ・ MP3
  - ・ MIDI
  - ・ Ogg Vorbis
  - ・ WAVE (PCM, a-law, u-law, ADPCM)
  - ・ WMA9 Standard, WMA Pro, WMA Lossless
- 画像
  - ・ JPEG
  - ・ GIF
  - ・ PNG
  - ・ BMP
- 映像
  - ・ H.263
  - ・ H.264
  - ・ MPEG-4
  - ・ WMV/VC-1
  - ・ DivX
  - ・ XviD
  - ・ MJPEG

## 6 章

### ■ その他 ユーティリティ

#### ■ 電卓

電卓の機能です。

#### ■ 連絡先

連絡先の氏名を画面の指示どおりに入力すると、名姓の順で表示されます。日本語の氏名は、Z以降に表示されます。

#### ■ アラーム

アラームの機能です。

#### ■ SingleClick Connect

離れた場所にあるパソコンを操作することができます。

#### ■ TOSHIBA Service Station

ソフトウェアのアップデートや重要なお知らせを自動的に提供するためのソフトウェアです。

**参照** ▶ 詳細について

『dynabookガイド 1章 **4** - **1** - **5** 「TOSHIBA Service Station」について』

本製品の [ウィジェット] タブに用意されているウィジェットについて、説明します。  
ウィジェットはあとから追加することもできます。

**参照** ▶ 起動したウィジェットを画面から消す方法  
『dynabookガイド 1章 **6** - **2** 本製品の基本操作』

## 1 本製品に用意されているウィジェット

### ■ Online Manual

「オンラインマニュアル」(本書) を起動できます。

### ■ TOSHIBA Media Player

「TOSHIBA Media Player」 を起動します。

### ■ TOSHIBA Memo Widget

メモを書いて、デスクトップエリアに表示しておくことができます。

### ■ TOSHIBA Social Network Widget

ソーシャルネットワークサービスに接続することができます。

### ■ TOSHIBA YouTube Widget

「YouTube」 に接続して、動画を再生することができます。

### ■ 検索

インターネットに接続しているときは、Googleで検索ができます。

### ■ 音楽

音楽を再生します。

### ■ 写真フレーム

写真を表示します。

### ■ アナログ時計

アナログ時計を表示します。

### ■ 電源管理

画面の輝度や無線LAN、BluetoothのON/OFFを設定できる画面が表示されます。

本製品を使用するときの、システム上のさまざまな環境の設定については、「設定」で変更や確認をすることができます。

本製品の「設定」タブには、「デスクトップ設定」と「設定」の2つのアイコンが用意されています。それぞれのアイコンから設定できる項目について、説明します。

**参照**▶ 「設定」の操作方法『dynabookガイド 1章 6 - 2 本製品の基本操作』

## 1 デスクトップ設定

### ■ 自動デスクトップ切替

使用している場所（接続しているネットワーク）によって、デスクトップエリアを切り替えます。詳細な設定は、「デスクトップ設定」で行ってください。

### ■ デスクトップ設定

[SSIDの関連付け] を設定すると、設定しているネットワークに接続したとき、デスクトップが切り替わります。

### ■ 壁紙を選択

デスクトップエリアの壁紙を設定できます。

## 2 設定

### ■ 無線とネットワーク

無線LANやBluetoothの設定を行うことができます。

**参照**▶ 無線LANについて「3章 1 - 2 ワイヤレス（無線LAN）を使う」

**参照**▶ Bluetoothについて「3章 2 Bluetooth機能」

### ■ サウンド&画面設定

本製品の音量の設定と、画面の輝度や画面表示のOFFなどの設定を行うことができます。

また、メールを受信したときなどに、通知LEDを点滅する／しない、点滅のパターンを設定できます。

**参照**▶ 音量について「2章 4 サウンド」

**参照**▶ 輝度について「2章 3 画面を見やすく調整する」

## ■ セキュリティ

画面ロックなどのセキュリティを設定することができます。

**参照**▶ 「本章 **4** 画面ロック」

## ■ アプリケーション

アプリケーションを管理します。

## ■ プライバシー

データの初期化と、内蔵フラッシュメモリのアプリケーション領域のバックアップおよび復元を行うことができます。

**参照**▶ データの初期化について『dynabookガイド 4章 **3** 初期化をする』

**参照**▶ バックアップについて「1章 **1** - **2** - **3** アプリケーション領域のバックアップをとる」

## ■ ストレージの設定

セットしている外部記憶装置と、内蔵フラッシュメモリのデータ領域の情報を確認することができます。

**参照**▶ SDメモ리카ードについて「2章 **5** いろいろなメディアカードを使う」

## ■ 検索

Google検索の設定を行うことができます。

## ■ 言語とキーボード

言語やキーボードの設定を行うことができます。

## ■ 日付と時刻

日付と時刻の設定を行うことができます。

## ■ 端末について

本製品の情報を確認できます。

## ■ タッチパッド

タッチパッドの縦スクロール機能のON/OFFを設定します。

## ■ 電源オプション

電源スイッチを押したとき、または本体液晶ディスプレイを閉じたときの動作などを設定することができます。

# 4 画面ロック

「画面ロック」は、電源を入れたときやサスペンドから復帰するとき、事前に設定した1～9までの数字を選択しないと起動できなくする機能です。

設定した数字をパターン（ロック解除パターン）と呼びます。

## 1 パターンの設定方法

「画面ロック」を使用するには、パターンを設定してください。

**1** [設定] タブ→ [設定] をクリックする

**2** [セキュリティ] をクリックする

**3** [ロック解除パターン設定] をクリックする

画面ロックの説明画面が表示された場合は、手順**4**に進んでください。

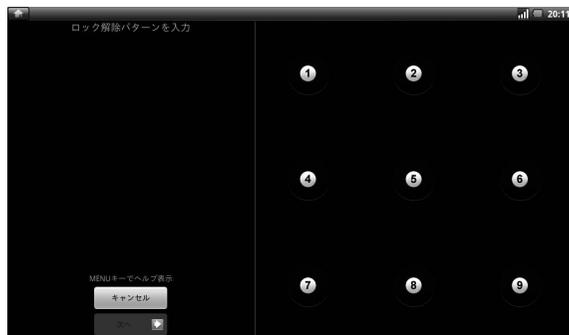
[ロック解除パターンを入力] 画面が表示された場合は、手順**6**に進んでください。

**4** 説明を確認し、[次へ] ボタンをクリックする

パターン例の説明画面が表示されます。

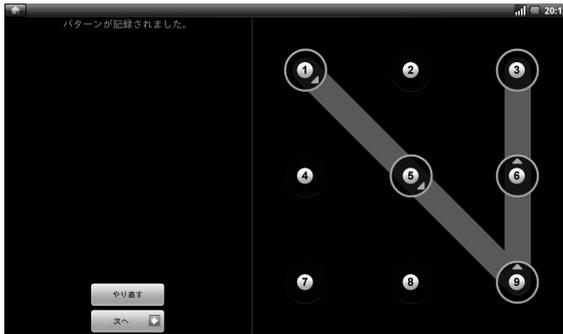
**5** 説明を確認し、[次へ] ボタンをクリックする

[ロック解除パターンを入力] 画面が表示されます。



## 6 新しいパターンを入力する

パターンの入力方法は、タッチパッドの左ボタンを押しながら、タッチパッドでカーソルを操作して、画面の4箇所以上の数字をなぞります。



(パターンは入力例です)

数字キーで入力することもできます。

## 7 【次へ】 ボタンをクリックする

数字キーで入力した場合は、**ENTER** キーを押してください。  
[確認のため、もう一度パターンを入力してください] 画面が表示されます。

## 8 手順 6 のパターンをもう一度入力する

## 9 【確認】 ボタンをクリックする

数字キーで入力した場合は、**ENTER** キーを押してください。  
パターンが設定されました。

## 2 画面ロックの解除方法

パターンが設定されていると、電源を入れたときやサスペンドから復帰するときに「画面ロック」が表示されます。

設定したパターンを入力してください。

### 3 パターンの削除手順

「画面ロック」の使用をやめる場合は、パターンを削除してください。

- 1 **【設定】** タブ→ **【設定】** をクリックする
- 2 **【セキュリティ】** をクリックする
- 3 **【パターン入力が必要】** をクリックする  
[現在のパターンを入力] 画面が表示されます。
- 4 **設定しているパターンを入力する**  
設定していたパターンが削除されます。

### 4 パターンの変更方法

設定したパターンは、次の手順で変更できます。

- 1 **【設定】** タブ→ **【設定】** をクリックする
- 2 **【セキュリティ】** をクリックする
- 3 **【パターンの変更】** をクリックする  
[現在のパターンを入力] 画面が表示されます。
- 4 **設定しているパターンを入力する**  
[ロック解除パターンを入力] 画面が表示されます。
- 5 **新しいパターンを入力する**
- 6 **【次へ】** ボタンをクリックする  
[確認のため、もう一度パターンを入力してください] 画面が表示されます。
- 7 手順 **5** のパターンをもう一度入力する
- 8 **【確認】** ボタンをクリックする  
パターンが変更されました。

# 7 章

## ■ 本製品の動作がおかしいときは

本製品の操作をしていて困ったときに、どうしたら良いかを説明しています。

トラブルが起こったときは、あわてずに、この章を読んで、解消方法を探してみてください。

- 1 トラブルを解消するまでの流れ..... 68
- 2 Q&A集..... 70

# 1

## トラブルを解消するまでの流れ

本製品に起こったトラブルについて、解決方法を見つけていきましょう。

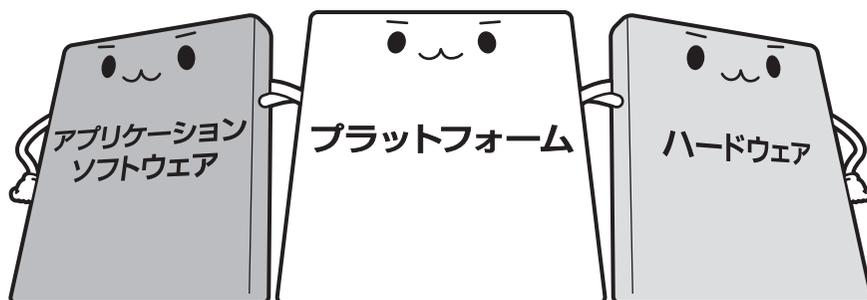
### 1 トラブルの原因をつき止めよう

本製品に起こるトラブルは、その原因がどこにあるかによって解決策が異なります。

そのために、本製品の構造をある程度知っておく必要があります。

ここでは、本製品の構成と、それぞれの構成部分で起こるトラブルの例、その解決方法を紹介します。

#### ■ 本製品を構成する3つの部分



#### ● アプリケーションソフトウェアとは

メールやインターネットは、アプリケーションソフトウェアの機能です。文書作成ソフトや表計算ソフト、ウイルスチェックソフトもアプリケーションソフトウェアの代表的なものです。それぞれ製造元が異なります。

#### ● プラットフォームとは

プラットフォームは、本製品を動かすための基本的な環境を指します。本製品のプラットフォームはAndroid 2.1です。

#### ● ハードウェアとは

バッテリーやACアダプターはもちろん、画面（ディスプレイ）、キーボード、内蔵フラッシュメモリ、CPUなど、本製品の本体を指します。

本製品はこれらの高度な技術の集合体です。トラブルの原因がそれぞれの製造元にしかわからない場合も多くあります。トラブルの症状に合わせた対処をすることが解決への早道です。

トラブルの解決には、最初に原因の切り分けを行います。一般的にはアプリケーションソフトウェア→プラットフォーム→本製品の本体の順にチェックします。

## 2 トラブル対処法

トラブルが発生したときの解決手順を紹介します。

### STEP1 Q&Aを読む

本書では、トラブルの解決方法をQ&A形式で説明しています。  
また、『dynabookガイド』などにもQ&Aが記載されているので、あわせて読んでください。

### STEP2 『dynabookガイド』を読む

本製品には『dynabookガイド』と「オンラインマニュアル」、2冊のマニュアルがあります。  
『dynabookガイド』も読んでください。

### STEP3 サポートのサイトで調べる

本製品独自のサポートサイト「サポート情報」Webページへ接続すると、各種サポート情報から解決方法を探ることができます。

[http://dynabook.com/assistpc/mid/index\\_j.htm](http://dynabook.com/assistpc/mid/index_j.htm)

本製品の「サポート情報」Webページでは、よくあるご質問（FAQ）や問い合わせ先、修理のご依頼など、本製品のご使用にあたってのサービス・サポート情報をご提供しています。

\* あらかじめインターネットへの接続設定を行ってください。

**参照**▶ 詳細について『サポートガイド』

それでもトラブルが解消しない場合は、お問い合わせください。

本製品に用意されているアプリケーションのお問い合わせ先は『dynabookガイド 5章 **4** お問い合わせ先』で確認してください。

ここに掲載しているQ&A集のほかに、『dynabookガイド』にもQ&A集があります。  
目的の項目が見つからないときは、『dynabookガイド』も参照してください。

<b>1</b>	<b>画面／表示</b> .....	<b>71</b>
	Q しばらく放置したら、画面が真っ暗になった.....	71
	Q テレビまたは外部ディスプレイを接続した状態で、 本製品をサスペンドから復帰したとき、 本体液晶ディスプレイに何も表示されない.....	71
	Q 画面が薄暗く、よく見えない.....	71
<b>2</b>	<b>キーボード</b> .....	<b>72</b>
	Q キーを押しても反応がない.....	72
	Q キーボードから文字を入力しているときにカーソルがとんでしまう .....	72
	Q キーボードに飲み物をこぼしてしまった.....	72
<b>3</b>	<b>タッチパッド／マウス</b> .....	<b>72</b>
	Q クリックしても反応がない.....	72
	Q レーザーマウスの反応がおかしい .....	73
	Q 光学式マウスの反応がおかしい.....	73
<b>4</b>	<b>その他</b> .....	<b>74</b>
	Q 本製品の近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい .....	74

## 1 画面／表示

## Q しばらく放置したら、画面が真っ暗になった

## A▶ 省電力機能が働いた可能性があります。

しばらくタッチパッドやキーボードを操作しないと、画面に表示される内容が見えなくなる場合があります。これは省電力機能が動作したためで、故障ではありません。実際には電源が入っていますので、電源スイッチを押さないでください。

**[SHIFT]** キーを押すか、タッチパッドをクリックする（1回軽くたたく）と表示が復帰します。

テレビまたは外部ディスプレイを接続している場合、表示が復帰するまでに10秒前後かかることがあります。

## A▶ 表示装置が適切に設定されていない可能性があります。

**[☒/☐]** キーを押して、表示装置を本体液晶ディスプレイに切り替えてください。

**参照▶** 詳細について「4章 **3** - **2** - **1** 切り替え方法」

## Q テレビまたは外部ディスプレイを接続した状態で、本製品をサスペンドから復帰したとき、本体液晶ディスプレイに何も表示されない

## A▶ テレビまたは外部ディスプレイに、画面表示が切り替わっている可能性があります。

テレビまたは外部ディスプレイの電源を入れて確認してください。本製品の画面が表示されていた場合は、本体液晶ディスプレイに表示を切り替えてください。

**参照▶** 詳細について「4章 **3** - **2** 表示を切り替える」

## Q 画面が薄暗く、よく見えない

A▶ **[▲☀]** キーを押して、本体液晶ディスプレイ（画面）の輝度を明るくしてください\*<sup>1</sup>。

**[▼☀]** キーを押すと、逆に、本体液晶ディスプレイの輝度は暗くなります。

\* 1 この設定は、テレビと外部ディスプレイには反映されません。

## 2 キーボード

## Q キーを押しても反応がない

**A**▶ プラットフォームが処理中の可能性があります。

プラットフォームが処理をしている状態のため、キーボードやタッチ패드などの操作を受け付けられないときがあります。プラットフォームの処理が終わるまで待ってから操作してください。

## Q キーボードから文字を入力しているときにカーソルがとんでしまう

**A**▶ 文字を入力しているときに誤ってタッチパッドに触れると、カーソルがとんでしまうことがあります。

次の手順でタッチパッドを無効に切り替えてください。

①  キーを押す

タッチパッドが無効になります。タッチパッドを有効にするにはもう一度  キーを押します。

## Q キーボードに飲み物をこぼしてしまった

**A**▶ 飲み物など液体がこぼれて内部に入ると、感電、本体の故障、作成データの消失などのおそれがあります。

もし、液体がパソコン内部に入ったときは、ただちに電源を切り、ACアダプターとバッテリーパックを取りはずして、東芝PCあんしんサポートにご相談ください。

## 3 タッチパッド/マウス

\*マウスは、別売りです。

## Q クリックしても反応がない

**A**▶ プラットフォームが処理中の可能性があります。

プラットフォームが処理をしている状態のため、タッチパッド、マウス、キーボードなどの操作を受け付けられないときがあります。プラットフォームの処理が終わるまで待ってから操作してください。

**A**▶ マウスが正しく接続されていない可能性があります。

マウスと本製品が正しく接続されていないと、マウスの操作はできません。マウスのプラグを正しく接続してください。

**A**→ タッチパッドのみ操作を受け付けない場合、タッチパッドが無効に設定されている可能性があります。

次の手順でタッチパッドを有効に切り替えてください。

①  キーを押す

タッチパッドが有効になります。タッチパッドを無効にするにはもう一度  キーを押します。

## Q レーザーマウスの反応がおかしい

**A**→ 光の反射が正しく認識されていない可能性があります。

反射しにくい素材の上で使うと正しくセンサーが働かず、ポインターがうまく動きません。次のような場所では動作が不安定になる場合があります。

- 光沢のある表面（ガラス、鏡など）

**A**→ 平らな場所でマウスを操作しているか確認してください。

マウスは、平らな場所で操作してください。マウスの下にゴミなどがある場合は取り除いてください。

## Q 光学式マウスの反応がおかしい

**A**→ 光の反射が正しく認識されていない可能性があります。

反射しにくい素材の上で使うと正しくセンサーが働かず、ポインターがうまく動きません。次のような場所では動作が不安定になる場合があります。

- 光沢のある表面（ガラス、研磨した金属、ラミネート、光沢紙、プラスチックなど）
- 画像パターンの変化が非常に少ない表面（人工大理石、新品のオフィスデスクなど）
- 画像パターンの方向性が強い表面（正目の木材、立体映像の入ったマウスパッドなど）

明るめの色のマウスパッドや紙など、光の反射を認識しやすい素材を使ったものの上で使用してください。

光学式マウスに対応したマウスパッドの使用を推奨します。

光学式マウスに対応していないものやマウスパッドの模様によっては、正常に動作しない場合があります。

**A**→ 平らな場所でマウスを操作しているか確認してください。

マウスは、平らな場所で操作してください。マウスの下にゴミなどがある場合は取り除いてください。

## 4 その他

### Q 本製品の近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい

**A**▶ 次の操作を行ってください。

- テレビ、ラジオの室内アンテナの方向を変える
- テレビ、ラジオに対する本製品の方向を変える
- 本製品をテレビ、ラジオから離す
- テレビ、ラジオのコンセントとは別のコンセントを使う
- コンセントと機器の電源プラグとの間に市販のフィルターを入れる
- 受信機に屋外アンテナを使う
- 平行フィーダを同軸ケーブルに替える

## 7 章

本製品の動作がおかしいときは

# 付録

本製品の機能を使用するにあたってのお願いや技術基準適合などについて記しています。

1	ご使用にあたってのお願い	76
2	記録メディアについて	80
3	お客様登録の手続き	82
4	技術基準適合について	83
5	各インターフェースの仕様	86
6	無線LANについて	88
7	Bluetoothについて	98

# 1

## ご使用にあたってのお願い

本書で説明している機能をご使用にあたって、知っておいていただきたいことや守っていただきたいことがあります。次のお願い事項を、本書の各機能の説明とあわせて必ずお読みください。

### 1 バックアップについて

#### バックアップをとるにあたって

- 内蔵フラッシュメモリや記録メディアに保存しているデータは、万が一故障が起きた場合や、変化／消失した場合に備えて定期的にバックアップをとって保存してください。内蔵フラッシュメモリや記録メディアに保存した内容の損害については、当社はいっさいその責任を負いません。

### 2 本製品の本体について

#### タッチパッドの操作にあたって

- タッチパッドを強く押さえたり、ボールペンなどの先の鋭いものを使わないでください。タッチパッドが故障するおそれがあります。

### 3 内蔵フラッシュメモリについて

#### 操作にあたって

- 内蔵フラッシュメモリにアクセス中は、電源を切ったり、本製品の本体を動かしたりしないでください。内蔵フラッシュメモリが故障したり、データが消失するおそれがあります。
- 内蔵フラッシュメモリに保存しているデータや重要な文書などは、万が一故障が起こったり、変化／消失した場合に備えて、定期的にSDメモリカードやUSBフラッシュメモリなどに保存しておいてください。記憶内容の変化／消失など、内蔵フラッシュメモリ、SDメモリカード、USBフラッシュメモリなどに保存した内容の損害については、当社はいっさいその責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

### 4 Webカメラについて

#### Webカメラを使用するにあたって

- Webカメラを太陽に直接向けないでください。
- Webカメラのレンズ部分に触れたり、強く押ししたりしないでください。画質が低下する原因となります。レンズ部分が汚れた場合は、眼鏡ふき（クリーナークロス）などの柔らかい布でふいてください。

## 5 無線LANについて

### 無線LANを使用するにあたって

- 無線LANの無線アンテナは、できるかぎり障害物が少なく見通しのきく場所で最も良好に動作します。無線通信の範囲を最大限有効にするには、ディスプレイを開き、本や分厚い紙の束などの障害物でディスプレイを覆わないようにしてください。  
また、本製品との間を金属板で遮へいしたり、無線アンテナの周囲を金属性のケースなどで覆わないようにしてください。
- 無線LANは無線製品です。各国／地域で適用される無線規制については、「付録 **6** 無線LANについて」を確認してください。
- 本製品の無線LANを使用できる地域については、「付録 **6** - **7** 使用できる国／地域について」を確認してください。

### 無線LANの操作にあたって

- Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。

## 6 Bluetoothについて

- 本製品は、すべてのBluetooth対応機器との接続動作を確認したものではありません。また、すべてのBluetooth対応機器との動作を保証することはできません。
- 本製品ではサポートしていないBluetoothプロファイルがあります。
- 本製品のBluetooth機能を使用できる国／地域については、「付録 **7** - **6** 使用できる国／地域について」を確認してください。

## 7 周辺機器について

### 周辺機器の取り付け／取りはずしについて

- 取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。4章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。
  - ・ ホットインサクションに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ず本製品の電源を切ってから作業を行ってください。ホットインサクションとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
  - ・ 適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
  - ・ ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
  - ・ 極端に温度や湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
  - ・ 静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
  - ・ 本製品に取り付けられているネジは、取りはずさないでください。
  - ・ 本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
  - ・ 本製品のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向を合わせてください。
  - ・ 本製品のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。

### USB対応機器の操作にあたって

- 電源供給を必要とするUSB対応機器を接続する場合は、USB対応機器の電源を入れてから本製品に接続してください。
- USB対応機器を使用するには、プラットフォームが対応している必要があります。
- すべてのUSB対応機器の動作確認は行っていません。したがってすべてのUSB対応機器の動作は保証できません。
- USB対応機器を接続したままサスペンドにすると、復帰後USB対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB対応機器を接続し直すか、本製品の電源をいったん切ったあと、電源を入れ直してください。

### □ 取りはずす前に確認しよう

- 取りはずすときは、USB対応機器をアプリケーションやプラットフォームで使用していないことを確認してください。
- USBフラッシュメモリやUSB接続型ハードディスクドライブ（記憶装置のUSB対応機器）を取りはずす場合は、データを消失するおそれがあるため、必ずプラットフォーム上で使用停止の手順を行ってください。

## テレビ／外部ディスプレイ接続の操作にあたって

- 必ず、映像を再生する前に、表示装置の切り替えを行ってください。再生中は表示装置を切り替えしないでください。
- 次のようなときには、表示装置を切り替えしないでください。
  - ・ データの読み出しや書き込みをしている間
  - ・ 通信を行っている間
- 同時表示にしているときに映像を再生させると、画像がコマ落ちをすることがあります。この場合は、同時表示をやめて、1つの表示装置に表示してください。

## ヘッドセットやヘッドホンの操作にあたって

- 次のような場合にはヘッドセットやヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。
  - ・ 本製品の電源を入れる／切るとき
  - ・ ヘッドセットやヘッドホンの取り付け／取りはずしをするとき

## 8 バッテリーについて

### バッテリーを充電するにあたって

- バッテリーパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。バッテリーは5～35℃の室温で充電してください。

記録メディアを使う前に、次の内容をよく読んでください。

## 1 メディアカードを使う前に

### 1 メディアカードの操作にあたって

- メディアカードにアクセス中は、電源を切ったり、メディアカードを取り出したり、本製品の本体を動かしたりしないでください。データやメディアカードが壊れるおそれがあります。
- メディアカードは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しく挿し込まれていない場合、本製品の動作が不安定になったり、メディアカードが壊れるおそれがあります。
- サスペンド中は、メディアカードを取り出さないでください。データが消失するおそれがあります。
- メディアカードのコネクタ部分（金色の部分）には触れないでください。静電気で壊れるおそれがあります。
- メディアカードを取り出す場合は、必ずプラットフォーム上で使用停止の手順を行ってください。データが消失したり、メディアカードが壊れるおそれがあります。
- 本製品の本体を持ち運ぶときは、必ずブリッジメディアスロットからメディアカードを取り出してください。ブリッジメディアスロットやメディアカードが破損するおそれがあります。

## 2 SDメモリカードを使う前に

- ブリッジメディアスロットにminiSDメモリカードをセットするときは、必ずSDメモリカードサイズのminiSDメモリカード用のアダプターを装着した状態で行ってください。microSDメモリカードをセットするときは、必ずSDメモリカードサイズのmicroSDメモリカード用のアダプターを装着した状態で行ってください。miniSDメモリカードサイズのmicroSDメモリカード用のアダプターは使用できません。
- ブリッジメディアスロットからminiSDメモリカード／microSDメモリカードを取り出すときは、必ずminiSDメモリカードまたはmicroSDメモリカード用のアダプターに装着したままの状態で行ってください。
- すべてのSDメモリカードの動作確認は行っていません。したがって、すべてのSDメモリカードの動作保証はできません。
- SDメモリカードは、SDMIの取り決めに従って、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐための著作権保護技術を搭載しています。そのため、ほかのパソコンなどで取り込んだデータが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生することはできません。SDMIとはSecure Digital Music Initiativeの略で、デジタル音楽データの著作権を守るための技術仕様を決めるための団体のことです。

- あなたが記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- SDメモ리카ードは、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐSDMIに準拠したデータを取り扱うことができます。メモリの一部を管理データ領域として使用するため、使用できるメモリ容量は表示の容量より少なくなっています。

## SDメモ리카ードのフォーマットについて

- 再フォーマットする場合は、SDメモ리카ードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤーなど）で行ってください。  
本製品でSDメモ리카ードのフォーマットを行わないでください。デジタルカメラやオーディオプレーヤーなどほかの機器で使用できなくなる場合があります。
- 再フォーマットを行うと、そのSDメモ리카ードに保存されていた情報はすべて消去されます。1度使用したSDメモ리카ードを再フォーマットする場合は注意してください。

## 3 マルチメディアカードを使う前に

- すべてのマルチメディアカードの動作確認は行っていません。したがって、すべてのマルチメディアカードの動作は保証できません。
- マルチメディアカードの詳しい使いかたなどについては『マルチメディアカードに付属の説明書』を確認してください。

## 2 記録メディアの廃棄・譲渡について

記録メディア（USBフラッシュメモリ、SDメモ리카ードなど）を廃棄・譲渡する際には、書き込まれたデータが流出しないよう、適切な方法で消去することをおすすめします。初期化、削除、消去などの操作などを行っても、データの復元ツールで再生できる場合もありますので、十分ご確認ください。  
データ消去のための専用ソフトや、メディア専用のシュレッダーも販売されています。

# 3

## お客様登録の手続き

製品を使用するときは、自分が製品の正規の使用者（ユーザー）であることを製品の製造元へ連絡します。これを「お客様登録」または「ユーザー登録」といいます。

お客様登録は、本製品の本体、使用するアプリケーションごとに行い、方法はそれぞれ異なります。

お客様登録を行わなくても、本製品やアプリケーションを使用できますが、お問い合わせをいただくときにお客様番号（「ユーザーID」など、名称は製品によって異なります）が必要な場合や、お客様登録をしているかたへは製品に関する大切な情報をお届けする場合がありますので、使い始めるときに済ませておくことをおすすめします。

### 1 東芝ID（TID）お客様登録のおすすめ

東芝では、お客様へのサービス・サポートのご提供の充実をはかるために東芝ID（TID）のご登録をおすすめしております。

サービス内容は、『サポートガイド』を確認してください。

詳しくは、次のアドレス「東芝ID（TID）とは？」をご覧ください。

[https://room1048.jp/onetoone/info/about\\_tid.htm](https://room1048.jp/onetoone/info/about_tid.htm)

#### 登録方法

インターネットに接続後、URLを入力して登録用のホームページにアクセスしていただきます。  
登録用ホームページ： <http://room1048.jp>

# 4

## 技術基準適合について

### ■ 瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

### ■ 高調波対策について

JIS C 61000-3-2 適合品

本装置は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 に適合しています。

### ■ 電波障害自主規制について

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI-B

参照 ▶ 「7章 2 - 4 - Q 本製品の近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい」

### ■ EU Declaration of Conformity について



This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives. Responsible for CE-Marking is TOSHIBA Europe GmbH, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany. The complete and official EU Declaration of Conformity can be found on TOSHIBA's web site

<http://epps.toshiba-teg.com> on the Internet.

### CE compliance

This product is labelled with the CE Mark in accordance with the related European Directives, notably Electromagnetic Compatibility Directive 2004/108/EC for the notebook and the electronic accessories including the supplied power adapter, the Radio Equipment and Telecommunications Terminal Equipment Directive 1999/5/EC in case of implemented telecommunication accessories and the Low Voltage Directive 2006/95/EC for the supplied power adapter. Furthermore the product complies with the Ecodesign Directive 2009/125/EC (ErP) and its related implementing measures.

This product and the original options are designed to observe the related EMC (Electromagnetic Compatibility) and safety standards. However, TOSHIBA cannot guarantee that this product still observes these EMC standards if options or cables not produced by TOSHIBA are connected or implemented. In this case the persons who have connected/implemented those options/cables have to provide assurance that the system (PC plus options/cables) still fulfils the required standards. To avoid general EMC problems, the following guidance should be noted:

- Only CE marked options should be connected/implemented
- Only best shielded cables should be connected

## Working environment

This product was designed to fulfil the EMC (Electromagnetic Compatibility) requirements to be observed for so-called “Residential, commercial and light industry environments”. TOSHIBA do not approve the use of this product in working environments other than the above mentioned “Residential, commercial and light industry environments”.

For example, the following environments are not approved:

- Industrial Environments (e.g. environments where a mains voltage of 380 V three-phase is used)
- Medical Environments
- Automotive Environments
- Aircraft Environments

Any consequences resulting from the use of this product in working environments that are not approved are not the responsibility of TOSHIBA.

The consequences of the use of this product in non-approved working environments may be:

- Interference with other devices or machines in the near surrounding area.
- Malfunction of, or data loss from, this product caused by disturbances generated by other devices or machines in the near surrounding area.

Therefore TOSHIBA strongly recommend that the electromagnetic compatibility of this product should be suitably tested in all non-approved working environments before use. In the case of automobiles or aircraft, the manufacturer or airline respectively should be asked for permission before use of this product.

Furthermore, for general safety reasons, the use of this product in environments with explosive atmospheres is not permitted.

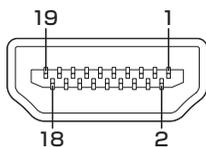
# 5

## 各インターフェースの仕様

### 1 HDMI 出力端子

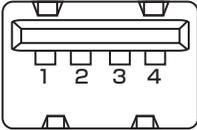
ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	TMDS Data2+	TMDSデータ (2+)	0
2	TMDS Data2 Shield	TMDSデータ (2) シールド	
3	TMDS Data2-	TMDSデータ (2-)	0
4	TMDS Data1+	TMDSデータ (1+)	0
5	TMDS Data1 Shield	TMDSデータ (1) シールド	
6	TMDS Data1-	TMDSデータ (1-)	0
7	TMDS Data0+	TMDSデータ (0+)	0
8	TMDS Data0 Shield	TMDSデータ (0) シールド	
9	TMDS Data0-	TMDSデータ (0-)	0
10	TMDS Clock+	TMDSクロック (+)	0
11	TMDS Clock Shield	TMDSクロックシールド	
12	TMDS Clock-	TMDSクロック (-)	0
13	Reserved	予約	
14	Reserved	予約	
15	SCL	SCLデータクロック信号	0
16	SDA	SDA通信信号	I/O
17	DDC/CEC Ground	DDC/CEC信号グランド	
18	+5V Power	電源	
19	Hot Plug Detect	ホットプラグディテクト	I

#### コネクタ図



信号名 : -がついているのは、負論理値の信号です  
 信号方向 (I) : 本製品への入力  
 信号方向 (O) : 本製品からの出力

## 2 USBインターフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	VBUS	+5V	
2	D-	マイナスデータ	I/O
3	D+	プラスデータ	I/O
4	GND	信号グランド	
コネクタ図			
			

信号名 : -がついているのは、負論理値の信号です

信号方向 (I) : 本製品への入力

信号方向 (O) : 本製品からの出力

# 6

# 無線LANについて

\*無線LANモデルのみ

## 1 無線LANの概要

本製品には、IEEE802.11b、IEEE802.11g、IEEE802.11nのすべて、もしくはその一部に準拠した無線LANモジュールが内蔵されています。次の機能をサポートしています。

- 周波数チャンネル選択
- マルチチャンネル間のローミング
- パワーマネージメント

## 2 無線特性

無線LANの無線特性は、製品を購入した国／地域、購入した製品の種類により異なる場合があります。

多くの場合、無線通信は使用する国／地域の無線規制の対象になります。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない2.4GHz帯で動作するように設計されていますが、国／地域の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。

無線周波数帯	IEEE802.11b, IEEE802.11g, IEEE802.11n	2.4GHz (2400-2483MHz)
変調方式	IEEE802.11g	直交周波数分割多重方式 OFDM-BPSK, OFDM-QPSK, OFDM-16QAM, OFDM-64QAM
	IEEE802.11b	直接拡散方式 DSSS-CCK, DSSS-DQPSK, DSSS-DBPSK
	IEEE802.11n	直交周波数分割多重方式 (OFDM方式), 空間多重方式 (MIMO方式)

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。

### メモ

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る"障害物"がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

### 3 サポートする周波数帯域

無線LANがサポートする2.4GHz帯のチャンネルは、国／地域で適用される無線規制によって異なる場合があります（表「無線IEEE802.11 チャンネルセット」参照）。

#### ■ 無線IEEE802.11 チャンネルセット

- 2.4GHz帯：2400-2483MHz（IEEE802.11b/g、IEEE802.11nの場合）

チャンネルID	周波数
1	2412
2	2417
3	2422
4	2427
5	2432
6	2437
7	2442
8	2447
9	2452
10	2457
11	2462
12	2467
13	2472

## 4 本製品を日本でお使いの場合のご注意

日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は2,400MHz～2,483.5MHzです。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局及び移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯2,427MHz～2,470.75MHzと重複しています。

### ■ステッカー

本製品を日本国内にてご使用の際には、本製品に付属されている次のステッカーを本製品の本体に貼り付けてください。

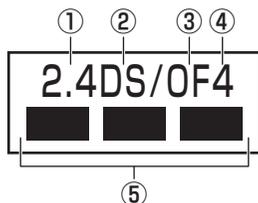
この機器の使用周波数帯は 2.4GHz帯です。この周波数では電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用されている免許を要する移動体識別用の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、東芝PCあんしんサポートへお問い合わせください。

## 付録

### ■現品表示

本製品には、次に示す現品表示が記載されています。



- ① 2.4 : 2,400MHz帯を使用する無線設備を表す。
- ② DS : 変調方式がDS-SS方式であることを示す。
- ③ OF : 変調方式がOFDM方式であることを示す。
- ④ 4 : 想定される与干渉距離が40m以下であることを示す。
- ⑤ ■ ■ ■ : 2,400MHz～2,483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

### ■東芝PCあんしんサポート

東芝PCあんしんサポートの連絡先は、『サポートガイド』を参照してください。

## 5 機器認証表示について

本製品には、電気通信事業法に基づく小電力データ通信システムの無線局として、認証を受けた無線設備を内蔵しています。したがって、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

### ■ Bluetooth モデルの場合

無線設備名 : MS-3871

財団法人電気通信端末機器審査協会

認証番号 : D10-0121001

### ■ Bluetooth 機能を搭載していないモデルの場合

無線設備名 : MS-3822

財団法人電気通信端末機器審査協会

認証番号 : D10-0030001

本製品に組み込まれた無線設備は、本製品に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの無線局として工事設計の認証を取得しています。したがって、組み込まれた無線設備をほかの機器へ流用した場合、電波法の規定に抵触するおそれがありますので、十分にご注意ください。

## 6 お知らせ

### 無線製品の相互運用性

本製品に内蔵されている無線LANモジュールは、Direct Sequence Spread Spectrum (DSSS) / Orthogonal Frequency Division Multiplexing (OFDM) 無線技術を使用するあらゆる無線LAN製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Institute of Electrical and Electronics Engineers (米国電気電子技術者協会) 策定の IEEE802.11 Standard on Wireless LANs (Revision b/g/n) (無線LAN標準規格 (版数 b/g/n))
- Wi-Fi Allianceの定義する Wireless Fidelity (Wi-Fi) 認証 Wi-Fi CERTIFIED ロゴは Wi-Fi Alliance の認定マークです。

### 健康への影響

本製品に内蔵されている無線LANモジュールは、ほかの無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルに抑えられています。

本製品に内蔵されている無線LANモジュールの動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと東芝では確信しております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。

ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者がWireless LANの使用を制限する場合があります。次にその例を示します。

- 飛行機の中でWireless LAN装置を使用する場合
- ほかの装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、Wireless LAN装置の電源を入れる前に、個々の組織または施設環境の管理者に対して、本製品の使用可否について確認してください。

### 規制に関する情報

本製品に内蔵されている無線LANモジュールのインストールと使用に際しては、必ず製品付属の取扱説明書に記載されている製造元の指示に従ってください。本製品は、無線周波基準と安全基準に準拠しています。

#### ● Canada - Industry Canada (IC)

This device complies with RSS 210 of Industry Canada.

Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference , and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of this device.

The term "IC" before the equipment certification number only signifies that the Industry Canada technical specifications were met.

## ● USA - Federal Communications Commission (FCC)

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy. If not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation.

If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by tuning the equipment off and on, the user is encouraged to try and correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and the receiver.
- Connect the equipment to outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

TOSHIBA is not responsible for any radio or television interference caused by unauthorized modification of the devices included with this the Wireless LAN, or the substitution or attachment of connecting cables and equipment other than specified by TOSHIBA.

The correction of interference caused by such unauthorized modification, substitution or attachment will be the responsibility of the user.

### **Caution: Exposure to Radio Frequency Radiation.**

The radiated output power of the Wireless LAN is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, the Wireless LAN shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized.

In the usual operating configuration, the distance between the antenna and the user should not be less than 20cm. Please refer to the PC user's manual for the details regarding antenna location.

The installer of this radio equipment must ensure that the antenna is located or pointed such that it does not emit RF field in excess of Health Canada limits for the general population; consult Safety Code 6, obtainable from Health Canada's website

[www.hc-sc.gc.ca/](http://www.hc-sc.gc.ca/)

## ● Europe

**Restrictions for Use of 2.4GHz Frequencies in European Community Countries**

België/ Belgique:	For private usage outside buildings across public grounds over less than 300m no special registration with IBPT/BIPT is required. Registration to IBPT/BIPT is required for private usage outside buildings across public grounds over more than 300m. For registration and license please contact IBPT/BIPT.  Voor privé-gebruik buiten gebouw over publieke grond over afstand kleiner dan 300m geen registratie bij BIPT/IBPT nodig; voor gebruik over afstand groter dan 300m is wel registratie bij BIPT/IBPT nodig. Voor registratie of licentie kunt u contact opnemen met BIPT.  Dans le cas d'une utilisation privée, à l'extérieur d'un bâtiment, au-dessus d'un espace public, aucun enregistrement n'est nécessaire pour une distance de moins de 300m. Pour une distance supérieure à 300m un enregistrement auprès de l'IBPT est requise. Pour les enregistrements et licences, veuillez contacter l'IBPT.
Deutschland:	License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow.  Anmeldung im Outdoor-Bereich notwendig, aber nicht genehmigungspflichtig. Bitte mit Händler die Vorgehensweise abstimmen.
France:	Restricted frequency band: only channels 1 to 7 (2400 MHz and 2454 MHz respectively) may be used outdoors in France.  Bande de fréquence restreinte : seuls les canaux 1-7 (2400 et 2454 MHz respectivement) doivent être utilisés endroits extérieur en France. Vous pouvez contacter l'Autorité de Régulation des Télécommunications ( <a href="http://www.art-telecom.fr">http://www.art-telecom.fr</a> ) pour la procédure à suivre.
Italia:	License required for indoor use. Use with outdoor installations not allowed.  E'necessaria la concessione ministeriale anche per l'uso interno. Verificare con i rivenditori la procedura da seguire.
Nederland	License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow.  Licentie verplicht voor gebruik met buitenantennes. Neem contact op met verkoper voor juiste procedure.

To remain in conformance with European spectrum usage laws for Wireless LAN operation, the above 2.4GHz channel limitations apply for outdoor usage. The user should use the Wireless LAN utility to check the current channel of operation. If operation is occurring outside of the allowable frequencies for outdoor use, as listed above, the user must contact the applicable national spectrum regulator to request a license for outdoor operation.

## ● Taiwan

### Article 12

Without permission granted by the NCC, any company, enterprise, or user is not allowed to change frequency, enhance transmitting power or alter original characteristic as well as performance to an approved low power radio-frequency devices.

### Article 14

The low power radio-frequency devices shall not influence aircraft security and interfere legal communications;

If found, the user shall cease operating immediately until no interference is achieved.

The said legal communications means radio communications is operated in compliance with the Telecommunications Act.

The low power radio-frequency devices must be susceptible with the interference from legal communications or ISM radio wave radiated devices.

## 7 使用できる国／地域について

## お願い

- 本製品は、次にあげる国／地域の無線規格を取得しております。これらの国／地域以外では使用できません。

## ■ Bluetoothモデルの場合

アメリカ	カザフスタン	スロベニア	パナマ	マケドニア
アイスランド	カナダ	セネガル	ハンガリー	マルタ
アイルランド	キプロス	台湾	フィンランド	モザンビーク
イエメン	ギリシャ	チェコ	プエルトリコ	モナコ
イギリス	グアテマラ	デンマーク	フランス	ラトビア
イタリア	コロンビア	ドイツ	ブルガリア	リトアニア
エストニア	ジンバブエ	ドミニカ	ベルギー	リヒテンシュタイン
エルサルバドル	スイス	トルコ	ポーランド	ルーマニア
オーストラリア	スウェーデン	ナイジェリア	ボリビア	ルクセンブルク
オーストリア	スペイン	日本	ポルトガル	レソト
オランダ	スリランカ	ニュージーランド	香港	
ガーナ	スロバキア	ノルウェー	ホンジュラス	

(2010年7月現在)

- インフラストラクチャ通信は、Ch1～Ch13で使用できます。

## ■ Bluetooth機能を搭載していないモデルの場合

アメリカ	カザフスタン	スロバキア	ノルウェー	ホンジュラス
アイスランド	カナダ	スロベニア	パナマ	マケドニア
アイルランド	キプロス	セネガル	ハンガリー	マルタ
イエメン	ギリシャ	台湾	フィンランド	モザンビーク
イギリス	グアテマラ	チェコ	プエルトリコ	モナコ
イタリア	コロンビア	デンマーク	フランス	ラトビア
エストニア	シンガポール	ドイツ	ブルガリア	リトアニア
エルサルバドル	ジンバブエ	ドミニカ	ベルギー	リヒテンシュタイン
オーストラリア	スイス	トルコ	ポーランド	ルーマニア
オーストリア	スウェーデン	ナミビア	ボリビア	ルクセンブルク
オランダ	スペイン	日本	ポルトガル	レソト
ガーナ	スリランカ	ニュージーランド	香港	

(2010年7月現在)

- インフラストラクチャ通信は、Ch1～Ch13で使用できます。

\* Bluetoothモデルのみ

## 1 物理仕様

ワイヤレス通信	通信方式	Bluetooth Specification Ver.2.1+EDR
	無線周波数帯	2.4GHz (2402~2480MHz)
	変調方式	周波数ホッピング方式 2値FSK
	出力* <sup>1</sup>	最大+4dBm (Power Class2)
	受信感度* <sup>1</sup>	-70dBm
	通信距離	見通し10m* <sup>2</sup>
電源電圧	3.3V	
消費電力	最大200mA	

\*<sup>1</sup> アンテナの効率は含まれません。

\*<sup>2</sup> 周囲の電波環境、障害物、設置環境などにより異なります。

## 2 無線特性

Bluetoothモジュールの無線特性は、製品を購入した国、購入した製品の種類により異なる場合があります。

多くの場合、無線通信は国/地域によって使用が規制されています。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない2.4GHz帯で動作するように設計されていますが、国/地域の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。

本製品のBluetooth通信機能が使用できる国/地域については、「本節 **6** 使用できる国/地域について」を確認してください。

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。



メモ

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る"障害物"がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

### 3 本製品を日本でお使いの場合のご注意

日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は2,400MHz～2,483.5MHzです。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局及び移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯2,427MHz～2,470.75MHzと重複しています。

#### ■ステッカー

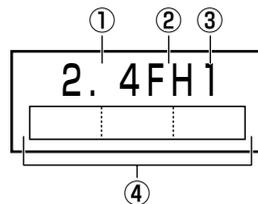
本製品を日本国内にてご使用の際には、本製品に付属されている次のステッカーを本製品の本体に貼り付けてください。

この機器の使用周波数帯は 2.4GHz帯です。この周波数では電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用されている免許を要する移動体識別用の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、東芝PCあんしんサポートへお問い合わせください。

#### ■現品表示

本製品には、次に示す現品表示が記載されています。



- ① 2.4 : 2,400MHz帯を使用する無線設備を表す。
- ② FH : 変調方式がFH-SS方式であることを示す。
- ③ 1 : 想定される与干渉距離が10m以下であることを示す。
- ④  : 2,400MHz～2,483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

#### ■東芝PCあんしんサポート

東芝PCあんしんサポートの連絡先は、『サポートガイド』を参照してください。

### 4 機器認証表示について

本製品は、電気通信事業法に基づく小電力データ通信システムの無線局の端末設備として、技術基準適合認証を受けております。

無線設備名 : MS-3871

財団法人電気通信端末機器審査協会

認証番号 : D10-0121001

本製品に組み込まれた無線設備は、本製品に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの無線局として工事設計の認証を取得しています。したがって、組み込まれた無線設備をほかの機器へ流用した場合、電波法の規定に抵触するおそれがありますので、十分にご注意ください。

### 5 お知らせ

#### ■ 無線製品の相互運用性

Bluetooth 東芝製モジュールは、Frequency Hopping Spread Spectrum (FHSS) 無線技術を使用するあらゆるBluetooth ワイヤレステクノロジーを用いた製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Bluetooth Special Interest Group策定のBluetooth Specification Ver.2.1+EDR
- Bluetooth Special Interest Groupの定義するBluetooth ワイヤレステクノロジーのLogo認証

#### 付録



- 本製品はすべてのBluetooth ワイヤレステクノロジーを用いた機器との接続動作を確認したものではありません。ご使用にあたっては、Bluetooth ワイヤレステクノロジーを用いた機器対応の動作条件と接続の可否情報を取扱元にご確認ください。

また下記の取り扱い上の注意点があります。

- (1) 本製品はBluetooth Version2.1+EDR仕様に準拠しております。  
Bluetooth Version1.0B仕様のBluetooth ワイヤレステクノロジーを用いた機器とは互換性がありません。
- (2) 2.4GHz帯のWireless-LANが近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。
- (3) BluetoothとWireless-LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、Wireless-LANのいずれかの使用を中止してください。

## ■ 健康への影響

Bluetooth ワイヤレステクノロジーを用いた製品はほかの無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルに抑えられています。

Bluetooth 東芝製モジュールの動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと東芝では確信しております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。

ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者がBluetooth ワイヤレステクノロジーの使用を制限する場合があります。次にその例を示します。

- 飛行機の中でBluetooth ワイヤレステクノロジーを用いた装置を使用する場合
- ほかの装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、Bluetooth ワイヤレステクノロジーを用いた装置の電源を入れる前に、管理者に使用の可否について確認してください。

## Regulatory statements

### ● General

This product complies with any mandatory product specification in any Country/ Region where the product is sold. In addition, the product complies with the following.

### ● European Union (EU) and EFTA

This equipment complies with the R&TTE directive 1999/5/EC and has been provided with the CE mark accordingly.

### ● Canada - Industry Canada (IC)

This device complies with RSS 210 of Industry Canada.

Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference , and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of this device."

L ' utilisation de ce dispositif est autorisee seulement aux conditions suivantes : (1) il ne doit pas produire de brouillage et (2) l' utilisateur du dispositif doit etre pret a accepter tout brouillage radioelectrique recu, meme si ce brouillage est susceptible de compromettre le fonctionnement du dispositif.

The term "IC" before the equipment certification number only signifies that the Industry Canada technical specifications were met.

### ● USA - Federal Communications Commission (FCC)

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy. If not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation.

If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by tuning the equipment off and on, the user is encouraged to try and correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the distance between the equipment and the receiver.
- Connect the equipment to outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

TOSHIBA is not responsible for any radio or television interference caused by unauthorized modification of the devices included with this Bluetooth Card from TOSHIBA, or the substitution or attachment of connecting cables and equipment other than specified by TOSHIBA.

The correction of interference caused by such unauthorized modification, substitution or attachment will be the responsibility of the user.

**Caution: Exposure to Radio Frequency Radiation.**

The radiated output power of the Bluetooth Card from TOSHIBA is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, the Bluetooth Card from TOSHIBA shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized. The antenna(s) used in this device are located at the upper edge of the LCD screen, and this device has been tested as portable device as defined in Section 2.1093 of FCC rules when the LCD screen is rotated 180 degree and covered the keyboard area. In addition, Bluetooth has been tested with Wireless LAN transceiver for co-location requirements. This device and its antenna(s) must not be co-located or operating in conjunction with any other antenna or transmitter.

The installer of this radio equipment must ensure that the antenna is located or pointed such that it does not emit RF field in excess of Health Canada limits for the general population; consult Safety Code 6, obtainable from Health Canada's website

[www.hc-sc.gc.ca/](http://www.hc-sc.gc.ca/)

**● Taiwan**

Article 12 Without permission granted by the NCC, any company, enterprise, or user is not allowed to change frequency, enhance transmitting power or alter original characteristic as well as performance to a approved low power radio-frequency devices.

Article 14 The low power radio-frequency devices shall not influence aircraft security and interfere legal communications; If found, the user shall cease operating immediately until no interference is achieved.

The said legal communications means radio communications is operated in compliance with the Telecommunications Act.

The low power radio-frequency devices must be susceptible with the interference from legal communications or ISM radio wave radiated devices.

## 6 使用できる国／地域について

## お願い

- 本製品は、次にあげる国／地域の無線規格を取得しております。これらの国／地域以外では使用できません。

アメリカ	カザフスタン	スロベニア	パナマ	マケドニア
アイスランド	カナダ	セネガル	ハンガリー	マルタ
アイルランド	キプロス	台湾	フィンランド	モザンビーク
イエメン	ギリシャ	チェコ	プエルトリコ	モナコ
イギリス	グアテマラ	デンマーク	フランス	ラトビア
イタリア	コロンビア	ドイツ	ブルガリア	リトアニア
エストニア	ジンバブエ	ドミニカ	ベルギー	リヒテンシュタイン
エルサルバドル	スイス	トルコ	ポーランド	ルーマニア
オーストラリア	スウェーデン	ナイジェリア	ボリビア	ルクセンブルク
オーストリア	スペイン	日本	ポルトガル	レソト
オランダ	スリランカ	ニュージーランド	香港	
ガーナ	スロバキア	ノルウェー	ホンジュラス	

(2010年7月現在)